

支笏洞爺国立公園 支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進プログラム 指標目標値達成状況および取組について

1. 自然体験活動推進プログラムの指標目標値の達成状況について

2025年度(令和7年度)を目標とした現行の推進プログラムの指標目標値は、コロナ禍前の2019年(令和元年)状況への回復をめざして設定されたものであるが、2022年度(令和4年度)におけるコロナ収束に伴う支笏湖・定山溪地区の回復の状況を以下に示した。

(1) 新型コロナウイルス感染症対策による入国規制の緩和(撤廃)

2020年(令和2年)1月に初めて国内で新型コロナウイルス感染者が確認されてから3年が経過し、感染症対策として実施されていた入国者総数上限を政府は2022年(令和4年)10月に撤廃した。また、入国の際に必要なとされていたワクチン接種証明書等の提示が2023年(令和5年)4月29日以降不要となり、いわゆる水際対策が終了した。

表 1-3-1 新型コロナウイルス感染症対策と旅行需要の経過

2019(令和元)年度	2020/1/28	道内で初めて感染者を確認(中国武漢市からの旅行者)	「どうみん割」等 道内の旅行需要喚 起策が各地で実施 される。
	2020/2/28-3/19	新型コロナウイルス道独自の緊急事態宣言を決定・開始	
	2020/3/25	ホノルル線を最後に新千歳空港国際線定期便就航ゼロとなる	
2020(令和2)年度	2020/4/17~5/25	緊急事態宣言	
	2020/7/1~ 2020/7/22~ 2020/12/28	「どうみん割」等開始 「Go To トラベル」開始 「Go To トラベル」一時停止	
	2021(令和3)年度	2021/5/16~/6/20	
2021/8/27~/9/30		緊急事態宣言	
2022(令和4)年度	2022/7/17	新千歳空港国際線2年4カ月ぶり再開 初便到着(大韓航空)	
	2022/10/11	外国人の新規入国制限の見直し、 入国者総数上限の撤廃	
2023(令和5)年度	2023/5/8	新型コロナウイルス感染症の位置 づけが「新型インフルエンザ等 感染症(いわゆる2類相当)」から 「5類感染症」に変更される。	
	2023/12/1 現在	新千歳空港国際線10路線運行 (ソウル、釜山、北京、上海、天津、台北、香港、バンコク、 クアラルンプール、シンガポール)	

参考：北海道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室(<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/covid-19/koronasengen.html>)

(2) 新千歳空港の利用状況

- 2022年度(令和4年度)の新千歳空港における国内線の乗降客数は、2019年(令和1年)1年間の合計の約8割に戻ってきており、12月から3月にかけての月当たりでは9割に回復していた(表1-3-2)。
- 国際線では、入国者数制限が撤廃された10月のあと、12月以降の国際線の乗降客数が一定数見られるようになり、訪日外国旅行者の回復がみられる(図1-3-1、表1-3-3)。

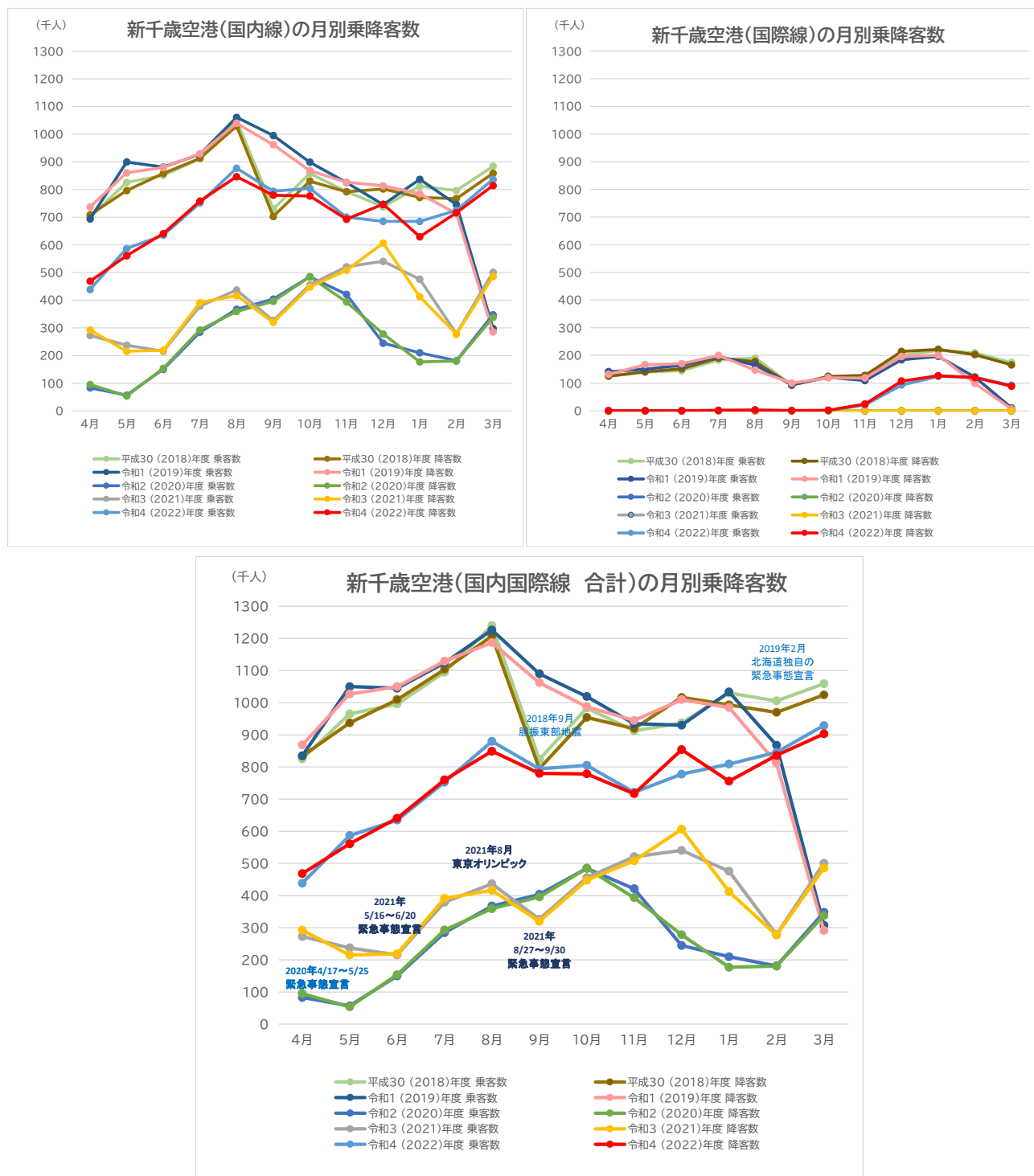


図 1-3-1 新千歳空の月別乗降客数の推移

表 1-3-2 国内線の乗降客数の推移と対 2019 年比

	平成30	平成30	令和1	令和1	令和2	令和2	令和3	令和3	令和4	令和4			
	(2018)年度	(2018)年度	(2019)年度	(2019)年度	(2020)年度	(2020)年度	(2021)年度	(2021)年度	(2022)年度	(2022)年度			
	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数			
4月	700,401	708,739	693,641	736,742	83,036	95,223	272,539	292,382	438,504	468,289	4月		
5月	825,561	796,184	899,417	860,478	56,877	53,820	237,301	215,114	586,694	560,738	5月		
6月	851,236	858,166	880,935	879,381	150,159	153,631	215,427	218,744	634,527	640,641	6月		
7月	911,344	913,013	927,574	929,495	284,544	292,620	379,017	390,971	751,774	758,220	7月		
8月	1,049,052	1,029,156	1,060,808	1,039,727	367,315	359,260	436,541	416,545	876,907	846,406	8月		
9月	729,782	702,685	995,205	962,273	403,765	395,897	326,404	319,759	793,844	779,344	9月		
10月	858,040	830,298	898,873	868,371	484,664	484,555	455,675	447,646	804,081	776,501	10月		
11月	792,851	791,779	825,330	826,171	421,124	393,582	520,769	508,041	700,194	692,494	11月		
12月	737,221	802,152	745,605	813,748	244,477	278,050	540,512	606,290	684,852	746,857	12月		
1月	811,896	771,214	836,792	784,660	209,815	176,886	475,580	412,205	684,812	629,266	1月		
2月	796,137	767,029	745,826	712,876	181,261	180,200	278,623	276,820	724,594	716,211	2月		
3月	884,126	858,568	297,669	285,141	347,612	337,962	500,795	485,469	836,801	814,275	3月		
合計	9,947,647	9,828,983	9,807,675	9,699,063	3,234,649	3,201,686	4,639,183	4,589,986	8,517,584	8,429,242	合計		
2019年合計			10,419,547	10,313,197									
	平成30	平成30	令和1	令和1	令和2	令和2	令和3	令和3	令和4	令和4			
	(2018)年度	(2018)年度	(2019)年度	(2019)年度	(2020)年度	(2020)年度	(2021)年度	(2021)年度	(2022)年度	(2022)年度			
	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数			
4月	101.0%	96.2%	693,641	736,742	12.0%	12.9%	39.3%	39.7%	63.2%	63.6%	4月		
5月	91.8%	92.5%	899,417	860,478	6.3%	6.3%	26.4%	25.0%	65.2%	65.2%	5月		
6月	96.6%	97.6%	880,935	879,381	17.0%	17.5%	24.5%	24.9%	72.0%	72.9%	6月		
7月	98.3%	98.2%	927,574	929,495	30.7%	31.5%	40.9%	42.1%	81.0%	81.6%	7月		
8月	98.9%	99.0%	1,060,808	1,039,727	34.6%	34.6%	41.2%	40.1%	82.7%	81.4%	8月		
9月	73.3%	73.0%	995,205	962,273	40.6%	41.1%	32.8%	33.2%	79.8%	81.0%	9月		
10月	95.5%	95.6%	898,873	868,371	53.9%	55.8%	50.7%	51.6%	89.5%	89.4%	10月		
11月	96.1%	95.8%	825,330	826,171	51.0%	47.6%	63.1%	61.5%	84.8%	83.8%	11月		
12月	98.9%	98.6%	745,605	813,748	32.8%	34.2%	72.5%	74.5%	91.9%	91.8%	12月		
1月	811,896	771,214	103.1%	101.7%	25.8%	22.9%	58.6%	53.4%	84.3%	81.6%	1月		
2月	796,137	767,029	93.7%	92.9%	22.8%	23.5%	35.0%	36.1%	91.0%	93.4%	2月		
3月	884,126	858,568	33.7%	33.2%	39.3%	39.4%	56.6%	56.5%	94.6%	94.8%	3月		
合計					31.0%	31.0%	44.5%	44.5%	81.7%	81.7%	合計		
2019年合計			10,419,547	10,313,197	年度合計は2019年合計に対する比率								

表 1-3-3 国際線の乗降客数の推移と対 2019 年比

	平成30	平成30	令和1	令和1	令和2	令和2	令和3	令和3	令和4	令和4			
	(2018)年度	(2018)年度	(2019)年度	(2019)年度	(2020)年度	(2020)年度	(2021)年度	(2021)年度	(2022)年度	(2022)年度			
	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数			
4月	124,443	125,329	140,936	131,678	0	0	0	0	0	0	3 4月		
5月	139,401	140,796	150,567	166,540	0	0	0	0	3	0	5月		
6月	144,656	151,398	163,982	170,232	0	0	7	0	44	3	6月		
7月	183,440	190,422	196,388	199,794	0	0	3	3	1,018	1,531	7月		
8月	190,543	177,802	165,232	146,885	0	0	2	0	3,056	2,559	8月		
9月	93,965	92,198	94,758	99,921	0	0	0	0	624	540	9月		
10月	125,094	123,711	120,295	118,965	0	0	4	0	882	1,940	10月		
11月	119,659	127,795	109,100	118,400	0	0	0	0	21,012	24,208	11月		
12月	199,894	214,414	184,368	195,780	0	7	0	3	92,845	107,035	12月		
1月	218,164	221,978	196,449	200,589	1	2	79	0	124,114	126,557	1月		
2月	209,484	202,789	121,925	99,240	0	0	0	0	121,103	119,878	2月		
3月	174,528	165,755	10,100	6,088	0	0	0	0	91,907	88,647	3月		
合計	1,923,271	1,934,387	1,654,100	1,654,112	1	9	95	6	456,608	472,901	合計		
2019年合計			1,927,802	1,938,717									
	平成30	平成30	令和1	令和1	令和2	令和2	令和3	令和3	令和4	令和4			
	(2018)年度	(2018)年度	(2019)年度	(2019)年度	(2020)年度	(2020)年度	(2021)年度	(2021)年度	(2022)年度	(2022)年度			
	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数			
4月	88.3%	95.2%	140,936	131,678	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4月		
5月	92.6%	84.5%	150,567	166,540	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5月		
6月	88.2%	88.9%	163,982	170,232	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6月		
7月	93.4%	95.3%	196,388	199,794	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.8%	7月		
8月	115.3%	121.0%	165,232	146,885	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.7%	8月		
9月	99.2%	92.3%	94,758	99,921	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.5%	9月		
10月	104.0%	104.0%	120,295	118,965	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	1.6%	10月		
11月	109.7%	107.9%	109,100	118,400	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	19.3%	20.4%	11月		
12月	108.4%	109.5%	184,368	195,780	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.4%	54.7%	12月		
1月	218,164	221,978	90.0%	90.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	56.9%	57.0%	1月		
2月	209,484	202,789	58.2%	48.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	57.8%	59.1%	2月		
3月	174,528	165,755	5.8%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	52.7%	53.5%	3月		
合計					0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	23.7%	24.4%	合計		
2019年合計			1,927,802	1,938,717	年度合計は2019年合計に対する比率								

(3) 2022 年度(令和 4 年度)の指標目標値の達成状況

① 指標目標値

支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進プログラムでは、2025 年(令和 7 年)あるいは年度を目標年次として、2020 年度(令和 2 年度)に以下の指標目標値を設定した。

目標値1:宿泊客延べ数(年度合計)

コロナ禍の影響を受けていない 2019 年 1 月から 12 月までの直近 1 年間(2019 年)の宿泊客延べ数を 2020 年度以降の回復目標値に設定した。

目標値2:日帰り利用者数(年度合計)

国立公園の利用は宿泊だけではなく、日帰りの利用も多い。国内外を問わず、全体の利用動向を把握するうえで重要な指標となる。コロナ禍の影響を受けていない直近 1 年間(2019 年)の日帰り利用者数を 2020 年度以降の回復目標値に設定した。

目標値3:季節変化(宿泊客延べ数最少月/宿泊客延べ数最多月:年度内変化)

安定した観光事業経営のために、また質の高い利用環境を確保するために、利用の平準化を図ることが必要である。コロナ禍の影響を受けていない直近 2 年間の変化率(最多月の宿泊客延べ数を 100 としたときの最少月の比率)から、支笏湖地区は変化が激しいため目標値を最多月の半数の 50、定山溪地区では 2019 年、2018 年の数値から目標値を 70 に設定した。

目標値4:訪日外国人旅行者数(年合計)

アンケート調査(観光庁「訪日外国人消費動向調査」)による推計値ではあるが、訪日外国人の宿泊、日帰りの両方が含まれた利用の指標となる。コロナ禍を受けていない 2019 年の推計値を回復目標値とした。

目標値5:訪日外国人宿泊客延べ数(年度合計)

コロナ禍の影響を受けていないとされる直近 1 年間(2019 年)の外国人宿泊客延べ数を 2025 年度までの回復目標とした。

参考比較値:支笏湖・定山溪地区及び周辺の主要施設の利用者数

国立公園内外の主要施設や道の駅等の利用状況を収集し、目標値の参考とする。

② 指標目標値の達成状況

支笏湖地区：

- 2022年度の宿泊客延べ数は、達成率95%とほぼコロナ禍前にはほぼ回復してきている(表1-3-4)。宿泊施設数は1件増え、宿泊収容力は微増(表1-3-5)。
- 2022年度の日帰り利用者数は、2019年目標値のまだ約半分(54.8%)であった(表1-3-4)。
- 宿泊客延べ数はほぼ回復してきたが、宿泊客の季節変化(最少月と最多月の比)は、コロナ禍前と大きな変化はない(表1-3-4、図1-3-3)。
- 2022年10月に感染症対策のための入国者数制限が撤廃され、12月頃から海外からの宿泊者数がカウントされるようになり、年間では2019年目標値の35%まで回復してきている(表1-3-4、図1-3-2)。

表 1-3-4 支笏湖地区の指標目標値と達成状況

	指標	期間	目標値	2020年度	2021年度	2022年度
				または2020年	または2021年	または2022年
1	宿泊客延べ数(人泊)	年度	157,000	115,617	105,223	150,300
			達成率	73.6%	67.0%	95.7%
2	日帰り利用者数(人)	年度	913,000	353,547	322,693	500,700
			達成率	38.7%	35.3%	54.8%
3	季節変化 (最少月宿泊客延べ数/ 最多月宿泊客延べ数)	年度	0.5	4月/8月	6月/8月	4月/8月
				0.09	0.22	0.29
			達成率	18.3%	43.6%	57.6%
4	訪日外国人旅行者数(人)	年	40,000	-	-	※4,184
			達成率	-	-	※10.5%
5	訪日外国人宿泊客延べ数 (人泊)	年度	27,000	968	24	9,491
			達成率	3.6%	0.1%	35.2%

※2022年7-12月の下半期の推計値のため、達成率は参考値

表 1-3-5 支笏湖地区の宿泊施設収容量の推移

集計基準日	軒数(軒)	客室数(室)	定員(人)
平成29(2017)年5月1日現在	10	219	807
平成30(2018)年5月1日現在	10	219	807
平成31(2019)年5月1日現在	11	244	903
令和2(2020)年5月1日現在	11	244	903
令和3(2021)年5月1日現在	10	226	795
令和4(2022)年4月1日現在	11	232	807

「要覧ちとせ」より

定山溪地区：

- 日帰り利用者は85%と回復してきているが、宿泊客延べ数は目標値の7割に満たない(表1-3-6)。宿泊施設数は2件増え、宿泊収容力は微増(表1-3-7)。
- 宿泊客延べ数の回復はまだ7割に満たないものの、宿泊客の季節変化(最少月と最多月の比)は小さく、目標達成率は80%となっている(表1-3-7、図1-3-3)。
- 外国人宿泊客延べ数は12月から1月、2月にかけて増加したが、年間での合計数では13%の回復となった(表1-3-6、図1-3-2)。

表1-3-6 定山溪地区の指標目標値と達成状況

指標	期間	目標値	2020年度	2021年度	2022年度
			または2020年	または2021年	または2022年
1 宿泊客延べ数(人泊)	年度	1,138,000	361,334	394,487	759,880
		達成率	31.8%	34.7%	66.8%
2 日帰り利用者数(人)	年度	419,000	242,721	268,238	358,314
		達成率	57.9%	64.0%	85.5%
3 季節変化 (最少月宿泊客延べ数/ 最多月宿泊客延べ数)	年度	0.7	5月/10月	6月/12月	4月/1月
			0.15	0.17	0.57
		達成率	21.4%	24.3%	80.9%
4 訪日外国人旅行者数(人)	年	131,000	-	-	※14,149
		達成率	-	-	※10.8%
5 訪日外国人宿泊客延べ数 (人泊)	年度	209,000	35	32	28,777
		達成率	0.0%	0.0%	13.8%

※2022年7-12月の下半期の推計値のため、達成率は参考値

表1-3-7 定山溪地区の宿泊施設の収容力の推移

集計基準日	軒数(軒)	客室数(室)	定員(人)
平成29(2017)年 (2018年3月31日現在)	21	2,075	8,464
平成30(2018)年 (2019年3月31日現在)	21	2,094	8,535
平成31(2019)年(2020年3月31日現在)	23	1,970	7,623
令和2(2020)年 (2021年3月31日現在)	35	1,944	7,449
令和3(2021)年 (2022年3月31日現在)	36	1,997	8,163
令和4(2022)年 (2023年3月31日)	38	2,102	8,209

「札幌の観光」より

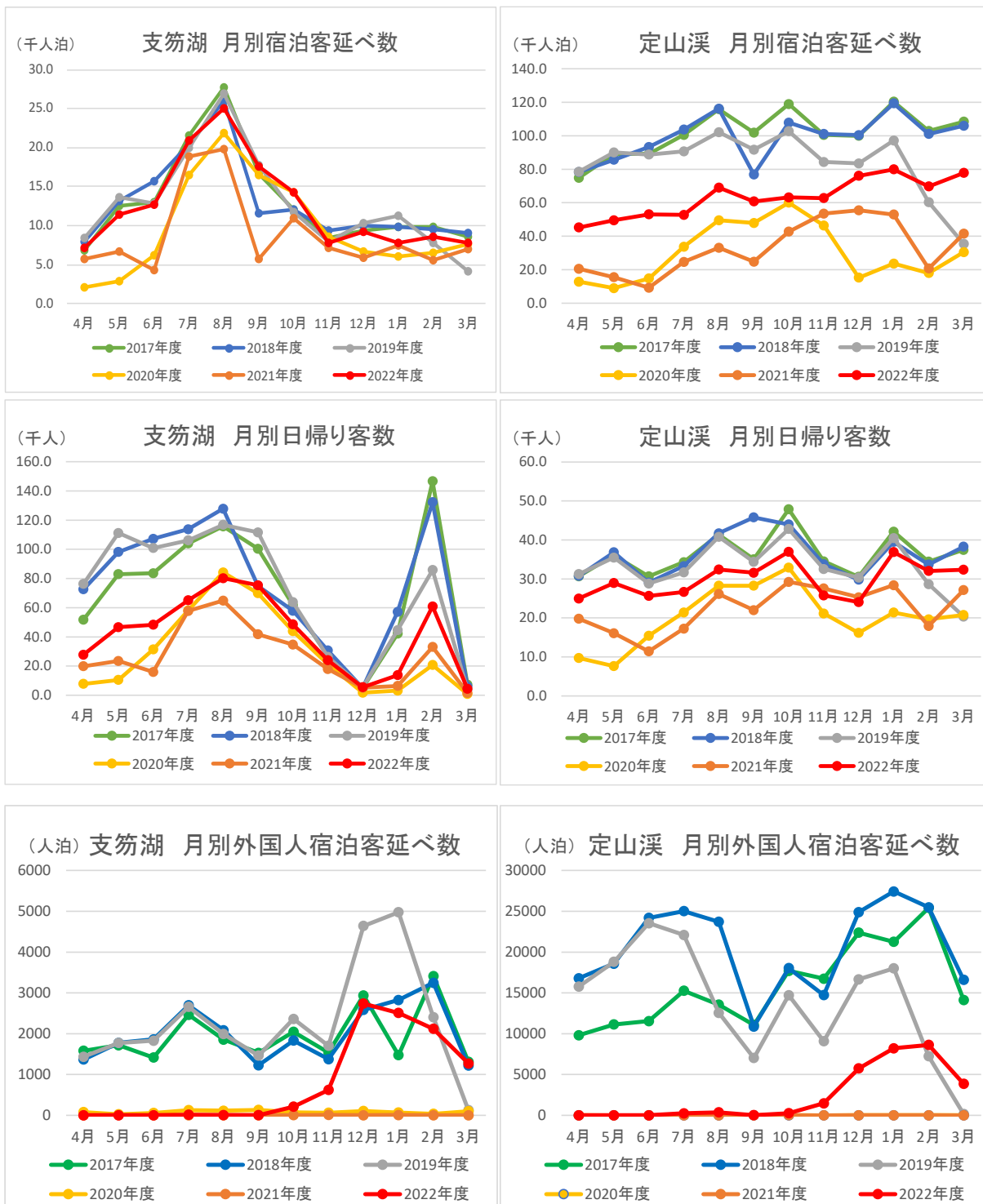


図 1-3-2 支笏湖地区と定山溪地区の月別の宿泊客延べ数、日帰り客数、外国人宿泊客延べ数の推移

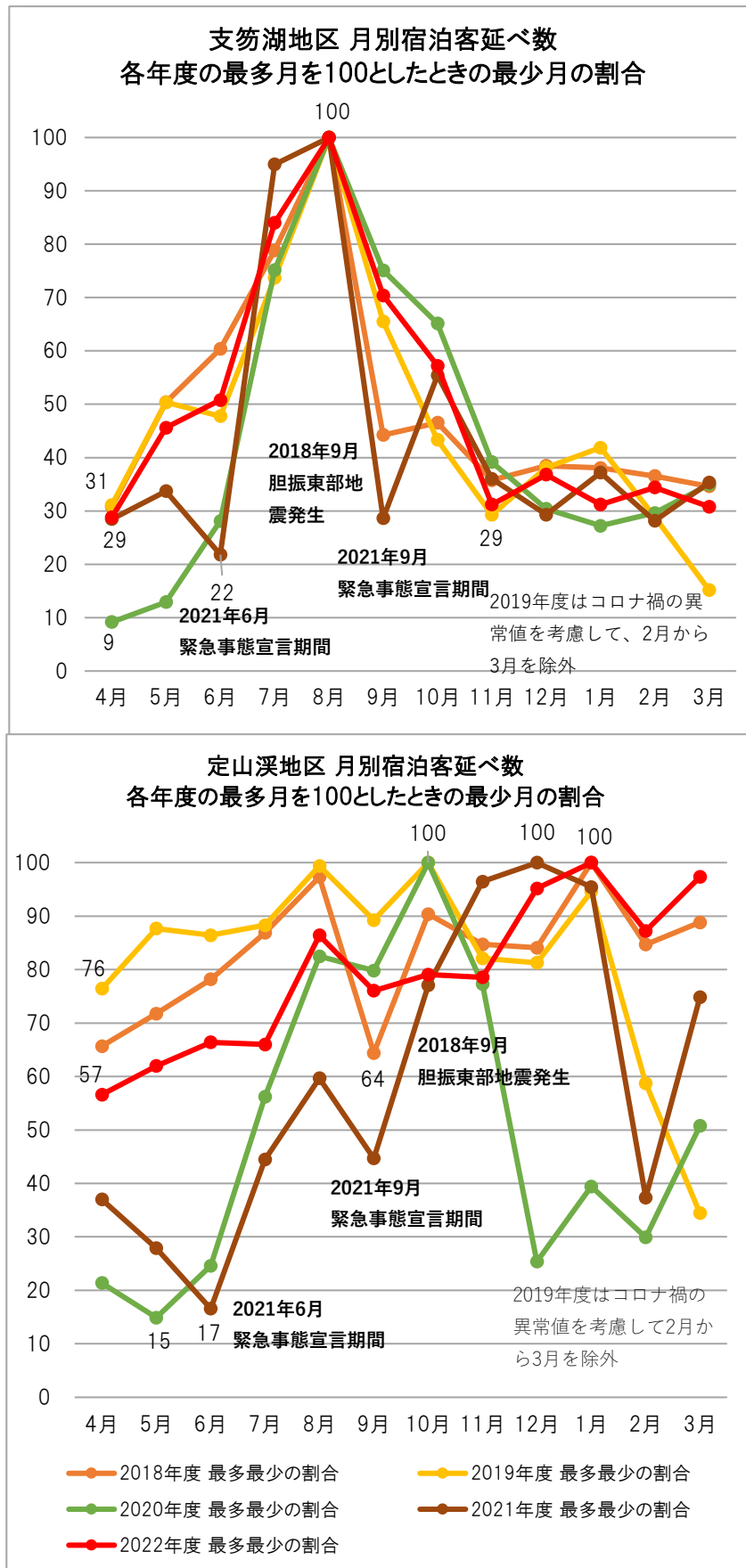


図 1-3-3 支笏湖地区と定山溪地区の宿泊客延べ数の最少月/最多月の推移

表 1-3-8 参考比較値：支笏湖地区の国立公園内外の主要施設等の利用状況の推移

施設名	所在地	種別	数値	年次	/2019年度	備考
国立公園内						
支笏湖ビジターセンター (データ:環境省)	千歳市	利用者数(人)	260,028	2022年度	97%	
			130,662	2021年度	49%	
			144,707	2020年度	54%	
			267,724	2019年度		外国人38,176
			249,082	2018年度		外国人40,839
			243,066	2017年度		外国人33,580
モラップキャンプ場 (データ:環境省)	千歳市	利用者数(人)	26,348	2022年度	127%	
			17,230	2021年度	83%	
			27,302	2020年度	131%	
			20,822	2019年度		
			17,503	2018年度		
			18,770	2017年度		
美笛キャンプ場 (データ:千歳市提供)	千歳市	利用者数(人)	25,373	2022年度	72%	
			23,201	2021年度	65%	
			31,513	2020年度	89%	
			35,439	2019年度		
			24,632	2018年度		
			25,754	2017年度		
樽前山 (データ:苫小牧市提供)	苫小牧市	利用者数(人)	36,594	2022年度	120%	外国人(概数) 312人
			40,695	2021年度	134%	外国人(概数) 331人
			38,125	2020年度	125%	外国人(概数) 567人
			30,466	2019年度		外国人(概数)1,686人
			28,454	2018年度		外国人(概数) 994人
			33,605	2017年度		
道の駅						
サーモンパーク千歳 (データ:千歳市提供)	千歳市	利用者数(人)	349,264	2022年度	84%	
			290,519	2021年度	70%	
			309,638	2020年度	74%	
			417,952	2019年度		
			406,434	2018年度		
			398,006	2017年度		
ウトナイ湖 (データ:苫小牧市提供)	苫小牧市	来場者数(人)	601,169	2022年度	77%	12月から2月の3カ月間休館
			508,051	2021年度	65%	
			555,977	2020年度	72%	
			777,220	2019年度		
			736,646	2018年度		
			757,831	2017年度		
主要観光施設						
サケのふるさと千歳水族館 (データ:千歳市提供)	千歳市	利用者数(人)	100,401	2022年度	84%	
			56,747	2021年度	47%	
			67,798	2020年度	56%	
			120,049	2019年度		
			118,452	2018年度		
			118,411	2017年度		
ウポポイ (2020年7/12オープン) 内閣官房アイヌ総合政策室 HP	白老町	利用者数(人)	369,038	2022年度		
			190,618	2021年度		2021年4月～2022年3月(内2021年6/1-6/21、8/31-9/30は臨時休業)
			198,485	2020年度		2020年7/12-2021年3月
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainusuishin/raijousokushin_renraku/dai3/siryou2-1.pdf より						

表 1-3-9 参考比較値：定山溪地区の国立公園内外の主要施設等の利用状況の推移

施設名	所在地	種別	数値	年次	/2019年度	備考
国立公園内						
豊平峡 (データ:札幌市提供)	札幌市	利用者数(人)	30,659	2022年度	34%	
			41,160	2021年度	46%	
			47,194	2020年度	53%	
			89,411	2019年度		
			70,331	2018年度		
			86,758	2017年度		
定山溪自然の村 (データ:札幌市提供)	札幌市	利用者数(人)	13,953	2022年度	59%	
			12,056	2021年度	51%	
			10,392	2020年度	44%	
			23,588	2019年度		
			20,817	2018年度		
			20,187	2017年度		
定山溪観光案内所 (データ:定山溪観光協会提供)	札幌市	利用者数(人)	36,258	2022年度	163%	外国人2,526人
			17,292	2021年度	78%	外国人 257人
			21,327	2020年度	96%	外国人 236人
			22,279	2019年度		外国人8,070人
			21,712	2018年度		外国人7,567人
周辺観光施設						
札幌市アイヌ文化交流センター (データ:札幌市提供)	札幌市	利用者数(人)	28,458	2022年度	49%	
			13,373	2021年度	23%	
			26,930	2020年度	46%	
			58,241	2019年度		
			55,083	2018年度		
			53,006	2017年度		
札幌国際スキー場 (データ:札幌市提供)	札幌市	リフト利用延べ人数(人)	1,712,691	2022年度	90%	
			1,653,250	2021年度	87%	
			1,674,000	2020年度	88%	
			1,908,000	2019年度		
			1,895,000	2018年度		
			1,811,000	2017年度		

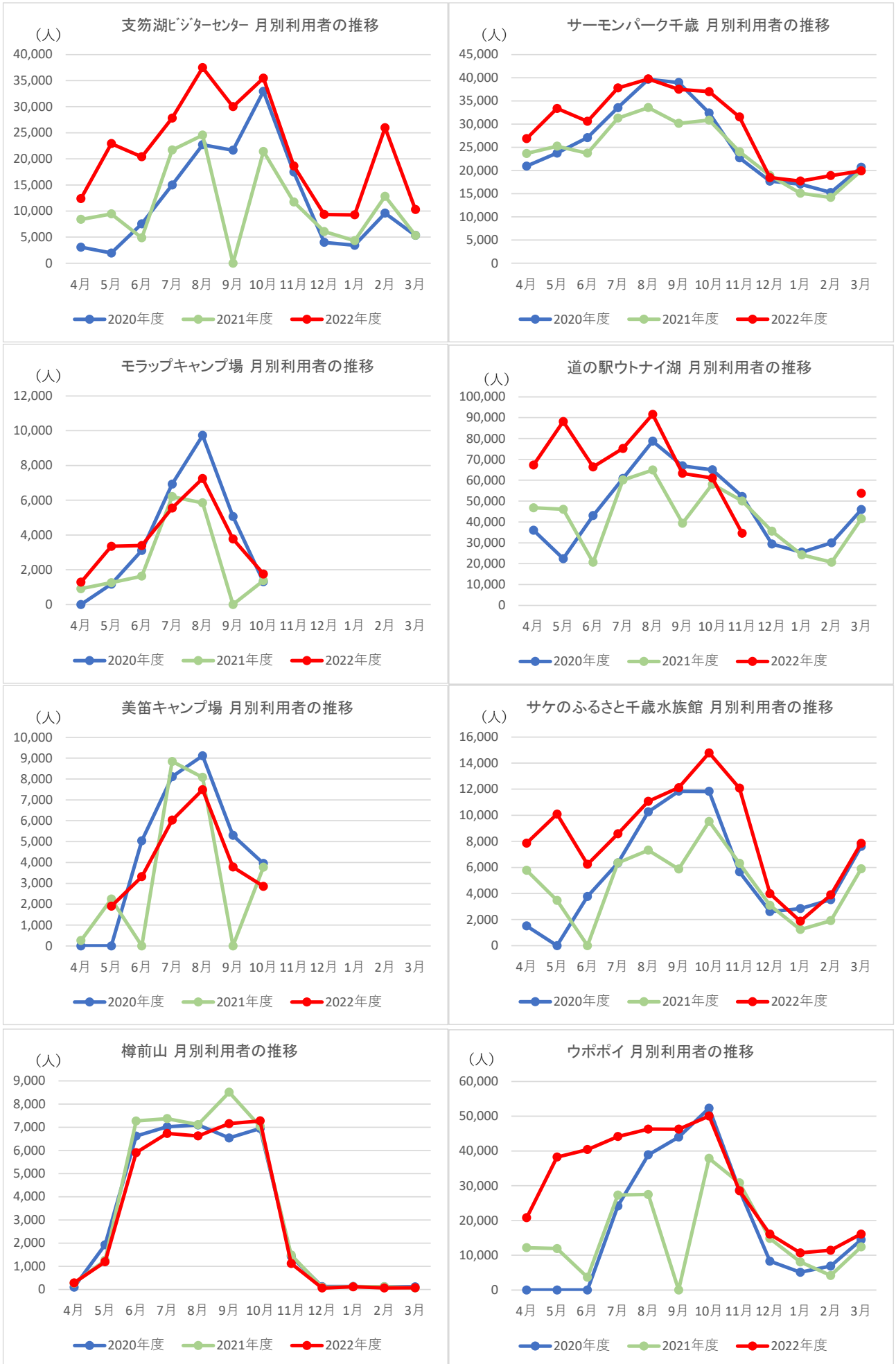


図 1-3-4 支笏湖地区の国立公園内外の主要施設等の月別利用状況の推移

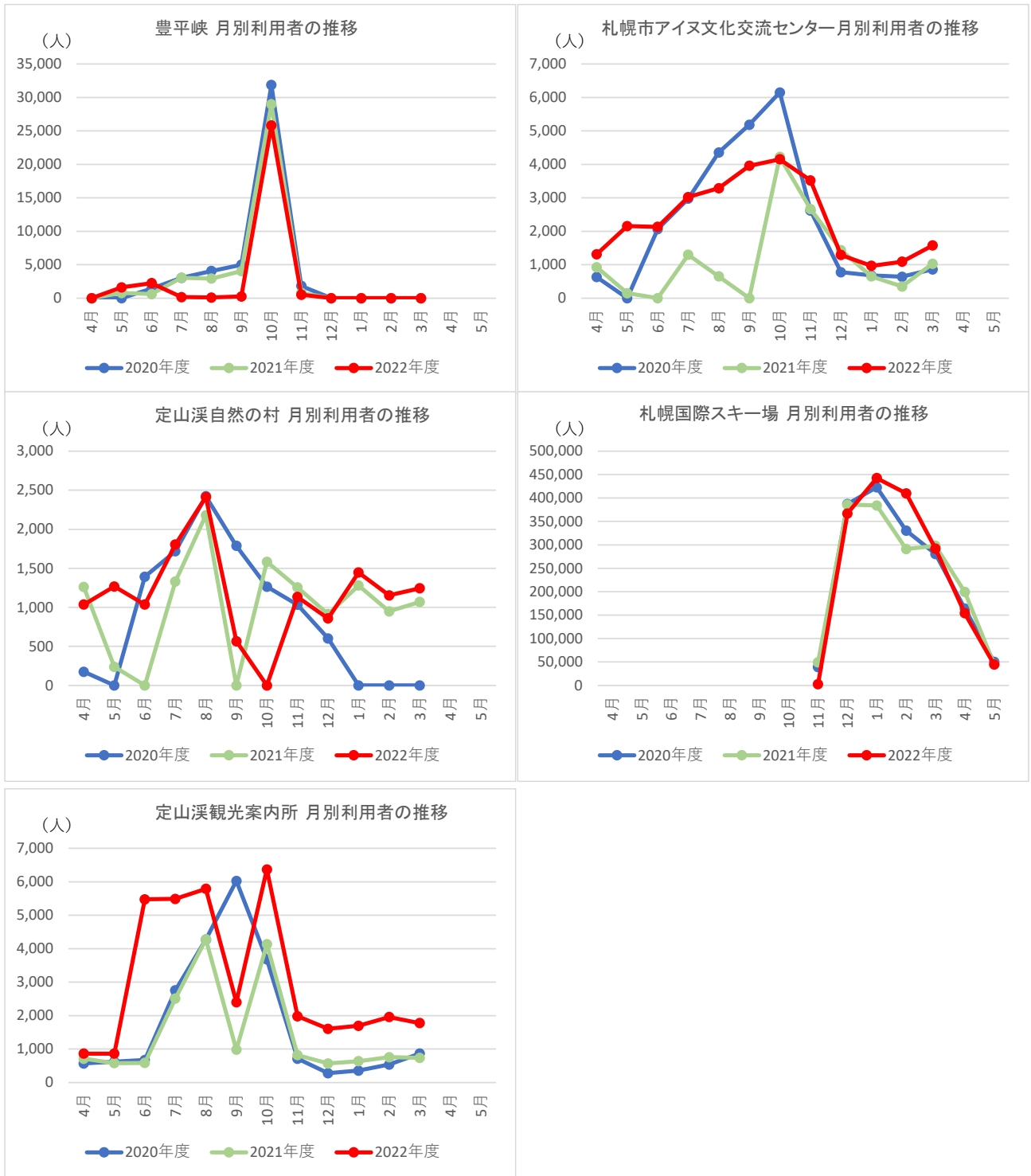


図 1-3-5 定山溪地区の国立公園内外の主要施設等の月別利用状況の推移

2. 自然体験活動推進プログラムの取組について

(1) 2023 年度(令和 5 年度)の取組について

構成員が実施した 2023 年度（令和 5 年度）の取組の実施状況や進捗を次ページ以降に示した。

支笏洞爺国立公園 支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進プログラム

2023年度（令和5年度） 取組状況一覧

定山溪地区の取組

支笏湖地区の取組

共通の取組

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
北海道森林管理局計画保全部			引き続き、各機関の取組において国有林野のフィールド利用等があれば、できる限り協力する。	各機関の取組の場として国有林野のフィールドを提供するなど側面支援の実施
北海道森林管理局石狩森林管理署			今後も、石狩森林管理署管内での国有林野の利用など要望があれば、出来る範囲で協力していく。	空沼岳と札幌岳の登山道（縦走路）を整備したいとの要請が提出されたので2023年度中に打合せを実施して、2024年度から整備できるように準備を進める。
北海道経済産業局	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	「ATWS北海道実行委員会」に参画し、関係機関と連携しながらATWS2023の開催の準備を行う。	ATWS2023を開催し、約600人の海外AT関係者に道内観光地やツアーコースのPRを行った。
北海道経済産業局	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	引き続きATWS2023に向けて、各種中小企業施策を活用し、事業者等が行う新たな滞在メニューやプログラムの開発を支援する。	ATWS2023や、その開催後を見据え、事業者等が行う新たなアクティビティ等滞在メニューの創出支援や、アクティビティ提供拠点整備に資する中小企業施策の普及啓発を行った。
北海道運輸局	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	「ATWS北海道実行委員会」に参画し、関係機関と連携しATWS2023の成功にむけた取組を行う。	ATWS北海道実行委員会の一員として、開催準備及び運営を担った他、JAPAN Loungeの運営に際して、出展者ネットワークの構築を行い、北海道のATのPRに貢献した。
北海道運輸局	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	ATWS2023において支笏湖周辺のエクスカージョンを実施するほか、引き続きAT事業の実施に際し観光庁事業を活用するなどの支援を行う。	ATWSにおいて実施したエクスカージョンにおいて、ATWS実行委員会としてアンケート調査を行い、エクスカージョン催行事業者にフィードバックを行うなど、プログラムの改良に向けた取組を支援した。
北海道運輸局	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	③ 他の国立公園との連携	「ATWS北海道実行委員会」に参画し、関係機関と連携しATWS2023の成功にむけた取組を行う。	ATWS北海道実行委員会の一員として、開催準備及び運営を担った他、JAPAN Loungeの運営に際して、出展者ネットワークの構築を行い、北海道のATのPRに貢献した。

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
北海道開発局札幌開発建設部	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	地域と道路管理者が一体で、秀逸な道の区間の磨き上げを行っていく。(継続実施)	秀逸な道区間で地域と道路管理者が一体で清掃活動を行うなど秀逸な道の磨き上げを実施。
北海道開発局札幌開発建設部	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	・国道230号における道路利用者への安全安心利用の普及啓発(安全情報マップの配布等)。マップは道の駅や各観光施設に配布(継続実施)。 ・日本語のほか、英語版マップの配布を継続実施	国道230号における道路利用者への安全安心利用の普及啓発のため、マップを道の駅や各観光施設に配布中。
北海道開発局札幌開発建設部	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	国道における高速道路のナンバリング標識整備、道路案内標識、交差点名標識の地名表示、道路情報板の英語表記の適正化(継続実施)	国道における高速道路のナンバリング標識整備、道路案内標識、交差点名標識の地名表示、道路情報板の英語表記を実施中。
北海道開発局札幌開発建設部	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	サイクルツーリズムを推進するためマップを完成させて、配布する。	サイクルツーリズムを推進するためのマップを配布中。
北海道開発局札幌開発建設部	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	③ 魅力的な景観の保全、景観形成	視点場の整備として、地域で検討し決定したパーキング名称の標識を設置予定(支笏湖地区)	パーキング名称を見直しした標識設置は2024年度に延期。
北海道経済部観光局	(1)支笏湖・定山渓地区の魅力国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	・ATWS2023の開催 ・ATWS2023終了後においてもさらに北海道のATを推進するため、各種PR等を実施	・ATWS2023の開催(64の国・地域から773名参加)：支笏湖 ・定山渓エリアでDOA(日帰りツアー)を2コース実施 ・冬季メディア招へい事業を実施予定(～2024.2月) ・北海道アドベンチャートラベルガイドの紹介を目的とする英語ポータルサイトを作成
北海道経済部観光局	(2)自然体験プログラムの充実	② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援	ATWS2023終了後においてもさらに北海道のATを推進するため、引き続き各種人材育成の取り組みを実施予定。	・2023年7月18日から施行した「北海道アドベンチャートラベルガイド認定等制度」を軸に、安全確保を含めた要求レベルの高い海外顧客に対応できる人材を育成するため、(公社)北海道観光振興機構と連携し、ガイド人材の能力向上研修を実施(野外救急法研修、スルーガイド研修(安全管理、顧客管理、自然・文化・歴史)等)

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
北海道経済部観光局	(2)自然体験プログラムの充実	② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援	ATに対応したガイドの認定制度の通年運営試行を実施予定。	・2023年7月18日から「北海道アドベンチャートラベルガイド認定等制度」を試行（認定数：16名）※R5.12.5時点
北海道経済部観光局	(7)自然体験活動の推進体制を強化	② 体制強化のための調査、計画	北海道アウトドア活動振興推進計画の推進（北海道知事認定ガイドの育成他）	・北海道アウトドアガイド有資格者、北海道アドベンチャートラベルガイド有資格者を対象に現状や、道に希望する施策等を聞き取るアンケートを実施
北海道胆振総合振興局	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	樽前山登山道改修事業の実施予定	今年度は樽前山のエリアを大きく2つに分けて事業を実施した。 1つ目は登山道入口から森林限界までにおいて設計を委託し、来年度以降実施予定の改修工事に向けて施工内容を検討した。2つ目として森林限界から東山山頂までにおいては、ロープ柵の設置工事を行い、利用者の安全性が向上した。
北海道胆振総合振興局	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	定期的な施設点検及び維持管理の実施	各施設を点検し、改修案や維持管理の方法を検討した。
北海道石狩振興局	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	モラップ線歩道のあり方について関係機関と協議を行う。	閉鎖区間の現地確認を環境省、振興局職員で実施した。今後、モラップ線歩道のあり方について関係機関と協議を行う。
北海道石狩振興局	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	・二見定山の遊歩道について、落石防止対策工事を実施する。 ・老朽化が著しい施設の改修について、設計委託業務を実施する。	・二見定山の遊歩道の落石防止対策工事を実施中。 ・2024年度に向けた歩道改修箇所について設計を行った。

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
北海道石狩振興局	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	① 観光案内所、WEBサイト等における情報発信	振興局主催、その他のイベント等において、管内観光周遊スポットのひとつとして紹介し、誘客促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント開催 <ul style="list-style-type: none"> ・8/1～9/30「食べる！遊ぶ！旬体験いしかりスマホスタンプラリー」で支笏湖ビジターセンターをスタンプスポットの1つとして設定 ●観光PR実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示、パンフレット配布、動画放映等 【道内】 <ul style="list-style-type: none"> ・エスコンフィールドHOKKAIDO 2023/5/24 <ul style="list-style-type: none"> 7/11～13 道民の日と連携実施 ・アリオ札幌 <ul style="list-style-type: none"> 7/19～21 木育フェアと連携実施 ・どさんこプラザ札幌店 <ul style="list-style-type: none"> 8/30～9/5 いしかりフェア2023開催 【道外】・名古屋空港 4/1～ <ul style="list-style-type: none"> 7/1～31（石狩エリアの観光PR） ・ツーリズムEXPO：大阪 <ul style="list-style-type: none"> 10/26-29 ・どさんこプラザあべのハルカス店 <ul style="list-style-type: none"> 11/8～11 いしかりフェア開催 ・どさんこプラザ羽田空港店 <ul style="list-style-type: none"> 2月 いしかりフェア開催予定 【海外】 <ul style="list-style-type: none"> ・バンコク日本博 9/1～3 ●映像制作 <ul style="list-style-type: none"> ・石狩管内の観光スポットを紹介する映像中で、スポットの1つとして支笏湖を設定 ●情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・振興局HP及びfacebook,instagramにおいて、定山溪及び支笏湖におけるイベント等の紹介記事掲載

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
札幌市	(1)支笏湖・定山渓地区の魅力を国内外へ周知	① 観光案内所、WEBサイト等における情報発信	各案内所にて、定山渓の多言語パンフレットの配布やイベント情報の発信を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・各案内所における定山渓の多言語パンフレットの配布や、WEBサイト等におけるイベント情報の発信を実施。 ・官公庁や商業施設の依頼に応じ、各施設におけるPR動画の放映、パンフレットの配架を実施。
札幌市	(1)支笏湖・定山渓地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	引き続き、インバウンドの早期回復に向けた各種プロモーションを行うとともに、中長期的な視点では、観光消費額や滞在日数の増加を目指し、都市型スノーリゾートのブランド化、欧米豪等の新たな市場での認知拡大を図っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア・東南アジア向けには、コロナ前への観光回復を目指し、グリーンシーズンのプロモーション、各市場への旅行博への出展により、訪日旅行関心層にプロモーション等を行った。 ・欧米豪に向けては、ATWSの開催を契機としたプロモーションや、都市型スノーリゾートの認知拡大を図るプロモーションを実施。
札幌市	(2)自然体験プログラムの充実	② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援 ③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	定山渓ガイド検定といった人材育成事業や、集客イベント、アクティビティコンテンツの推進事業等に対して、補助を実施。	ガイドの育成等を目的とした「定山渓検定」の実施、集客イベント、アクティビティコンテンツの推進事業等に対して、補助を実施。
札幌市	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	集客交流拠点施設に求められる機能や整備手法について、地元と協議を進めていく。	集客交流拠点施設のあり方について、「まちづくり勉強会」を継続的に実施。今後、新「定山渓観光魅力アップ構想」を策定することから、地元と意見交換を進めていく。
札幌市	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実		足湯施設新築事業については、事業者選定中であり、2024年2月頃着工、同年12月竣工予定。
札幌市	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくり計画の登録申請に向けて、7月に「定山渓地区(豊平川)かわまちづくり協議会」を設立。 ・協議会メンバーや地元関係者によるワークショップを開催し意見交換を実施。
札幌市	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	③ 魅力的な景観の保全、景観形成	老朽化した施設の修繕や、観光客を引込むための滞留空間の設置、緑が少なく寂しい印象になっていた場所への植栽等、魅力的な景観形成を行う民間事業に対して、補助を継続実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した観光施設の修繕を実施。 ・老朽化した施設の修繕や、緑が少なく寂しい印象になっていた場所の緑化等、魅力的な景観形成を行う民間事業者に対して、補助を実施。

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
札幌市	(4)サステイナブル・ツーリズムの実現		持続可能な観光推進のため、札幌市の取組状況の把握を行い、効果的な取組を行うための方針の整理を行う予定。	・持続可能な観光推進のため、国際基準に準拠した指標（日本版持続可能な観光ガイドライン、グリーンディステイネーションズスタンダード）に照らした札幌市の取組状況の把握を実施 ・今後、効果的な取組を行うための方針の整理を行う予定
札幌市	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	定山溪観光協会HPやパンフレットの更新、SNSを利用した情報発信等、定山溪観光協会が行う事業に対して、補助を継続実施。	定山溪観光協会HPやパンフレットのリニューアル、SNSを利用した情報発信等、定山溪観光協会が行う事業に対して、補助を実施。
札幌市	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	2023年度もスノーリゾートとしてのブランド化に向けた取組への支援を継続予定。	・都市型スノーリゾートとしての世界的ブランド確立に向けた、冬季観光コンテンツ造成に対する補助、市内スキー場の魅力アップや市内スキー場等が連携した事業への支援、土地利用の調査検討を実施。
札幌市	(7)自然体験活動の推進体制を強化	① DMO等への組織強化	札幌観光の推進体制の強化に向けて、DMOの設立も含めた検討を実施。	札幌版DMOの設立に向け、各種調査やDMOの戦略・具体的な取組などの検討を行い、「札幌版DMOの方向性・概要（案）」を策定予定
苫小牧市	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	④ 安全、安心な環境づくり	継続実施(ホームページによるマナー・注意事項等の周知、登山者数のカウント、英語表記リフレットの配布)	ホームページによるマナー・注意事項、樽前山7合目までの道路整備等の周知、登山者数のカウント、観光施設に英語表記リフレットの配布、外国人登山者への施設利用に関する多言語表記案内
千歳市	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力在国内外へ周知	② 情報発信の機会の拡充	「千歳・恵庭・北広島広域観光推進協議会」事業における、3市連携による情報共有	未実施
千歳市	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力在国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	新型コロナの状況を見ながら対応	さっぽろ連携中枢都市圏参画市町村と連携した台湾ITFへの出展プロモーション、北海道訪日教育旅行促進協議会における台湾訪問を実施
千歳市	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	支笏湖ビジターセンターの実施する自然体験学習プログラムへの補助金交付による支援継続	支笏湖ビジターセンターが行う自然ふれあい事業について補助金を交付
千歳市	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	2023年ATWS北海道開催に向けたプロモーション	アメリカ・カナダのAT旅行会社4社を独自に招請し、視察を実施 ATWS2023においてDOA2コースを催行
千歳市	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	支笏湖ビジターセンターの案内機能強化のため、運営機関への支援を継続する。	支笏湖ビジターセンターの行う自然公園情報の収集及び提供事業について補助金を交付

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
千歳市	(5)多様な滞在スタイルの推進	① ワークーション推進のための検討、調査	千歳観光連盟、支笏湖運営協議会、温泉旅館組合などと連携して市全体でワークーションの推進を検討	民間企業の若手社員を中心に15名を招聘し、1泊2日の研修型ワークーションを実施（休暇村支笏湖、オーシャンデイズ等地元事業者と連携実施）
千歳市	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	シーニックバイウェイへの参画など支笏湖と定山溪、また恵庭渓谷等の周辺エリアと連携したプログラムについて、関係各機関との情報共有のなかで検討	シーニックバイウェイの活動として関係機関と連携しウェルカム花ロードを実施した。
千歳市	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	世界文化遺産に登録されたキウス周堤墓の世界遺産を活用し、周辺地域と連携したツアー商品等の開発、造成	未実施
恵庭市	(2)自然体験プログラムの充実	② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援	盤尻地区における自然体験、歴史教育体験プログラムの開発及びガイド育成に向けた調整。	盤尻地区における自然体験、歴史教育体験プログラムの開発及びガイド育成に向け、調整中。
恵庭市	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	盤尻地区における広報拠点施設の設置に向けた調整。	盤尻地区における広報拠点施設の設置に向け、調整中。
恵庭市	(4)サステイナブル・ツーリズムの実現	① 二次・三次交通の充実	盤尻地区におけるレンタカー、タクシー、バス会社等と連携した二次交通の確保に向けた調整。	盤尻地区におけるレンタカー、タクシー、バス会社等と連携した二次交通の確保に向け、調整中。
恵庭市	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	周辺地域との連携により周辺エリアにおける周遊プログラムを検討。	周辺エリアにおける周遊プログラムについて検討中。
恵庭市	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	支笏湖地区との連携も見据え、恵庭渓谷における紅葉ツアー等の誘客事業を検討・実施。	紅葉時期のバスの運行について、検討中。
恵庭市	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	・支笏湖地区との連携も見据え、引き続き緑のふるさと森林公園でのホーストレッキング事業を実施 ・また、経年劣化している公園内の林道の整備や維持修繕を実施。	緑のふるさと森林公園でホーストレッキングを実施した。また、経年劣化している公園内の林道の整備については、現在進めている最中である。
恵庭市	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	ガーデンフェスタのレガシーを引き継ぎながら、花の拠点（はなふる）を会場に花とくらし展を開催。近隣の花と緑の観光資源などと連携及びPR。	ガーデンフェスタのレガシーを引き継ぎながら、花の拠点（はなふる）を会場に花とくらし展を9日間の長期にわたって開催した。

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
北海道観光振興機構	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	・多言語サイト『GoodDay北海道』の言語（簡体字、韓国語など）ページの拡充を図る。サイト閲覧数増加のための施策を講じる。	外国語サイトは現在「HOKKAIDO LOVE!」に統一。多言語化は英語・繁体字・簡体字・ハングル・インドネシア語で展開。またJNTOの「Experiences in Japan」から「HOKKAIDO LOVE!」への誘導を図っている。
北海道観光振興機構	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	機構HPでの情報発信に加え、当機構における個別事業において、その都度国内外への情報発信・PRを実施	機構HPを通じて、引き続き観光情報を発信してゆく。
北海道観光振興機構	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	ATWS2023の9月実施に向けての準備および大会本番の成功。	ATWS北海道実行委員会の構成団体の一つとして、実行委員会事務局の一翼を担い、準備期間からサミット閉会まで実務を担当した。具体的には、会場設営や飲食手配、レセプションの実施、招待者対応、メディア対応、公式エクスカージョンの実施、文化体験・ミニツアーの実施など多岐にわたる。また道負担金事業では、ATWS開催前にAdventure ELEVATE（米国）へ出展し、ポストサミット・アドベンチャーに向けた実地踏査を行なった。開催後の下期の事業としては、ATWS報告映像の制作、ガイド向け研修、メディア招聘、AT商品造成および商談会、国内向けプロモーション等を企画・実施中。
北海道観光振興機構	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	地域が取り組む滞在メニュー（自然体験）やプログラムの開発、地元地域での活動の気運醸成などに対し、積極的に支援を行う。	「地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業」において各団体が推進している滞在メニューやプログラム・コンテンツの開発を支援している。
北海道観光振興機構	(5)多様な滞在スタイルの推進	① ワークेशन推進のための検討、調査 ② ナイトタイムの充実	ワークेशन推進、およびナイトタイムコンテンツの充実について、「地域の魅力を活かした観光地づくり事業」にて実施予定	同事業においてワークेशन関連を3件、ナイトタイムエコノミー関連を7件採択したものの、いずれも支笏湖・定山溪エリアにおける申請は無かったしかし支笏湖と千歳川周辺を拠点としたATコンテンツ創出事業に対し支援している。

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
HATA 北海道アドベンチャート ラベル協議会	(1)支笏湖・定山溪地区 の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	「ATWS北海道実行委員会」に参画し、関係機関と連携しATWS2023の成功にむけた取組を行う。	ATWS北海道実行委員会に参画し準備、運営に携わったほか、ATWSに参加し北海道のATのPRを行った。
HATA 北海道アドベンチャート ラベル協議会	(2)自然体験プログラムの 充実	② ガイド及びガイド事業者 の育成、技術向上支援	観光庁調査事業などを活用し、ツアーオペレーターと連携したATツアーの磨き上げを実施予定。	北海道観光振興機構他、関係機関の事業において研修を実施するなど、ATの磨き上げを行った。
HATA 北海道アドベンチャート ラベル協議会	(2)自然体験プログラムの 充実	② ガイド及びガイド事業者 の育成、技術向上支援	観光庁調査事業などを活用し、ガイドのスキル向上などを目的とする研修を実施予定。	北海道観光振興機構他、関係機関の事業において研修を実施するなど、ガイドのスキル向上を行った。
HATA 北海道アドベンチャート ラベル協議会	(6)周辺地域との連携、他 の国立公園との連携	③ 他の国立公園との連携	ホームページの改修を検討	ホームページの改修、セキュリティレベル向上について検討中。
定山溪観光協会	(1)支笏湖・定山溪地区 の魅力を国内外へ周知	①観光案内所、WEBサイト 等における情報発信	HPやパンフレットの掲載内容の随時更新を継続	パンフレットは12月に改訂版が納品 HPについては随時更新中
定山溪観光協会	(2)自然体験プログラムの 充実	③ 滞在メニューやプログラ ムの開発、実施	紅葉時期の紅葉かっぱバス(ガイド付き観光バス)の 運行を継続的に実施	今年も運行 インバウンド乗車率が昨年度7%→今 年度30%に上昇、全体乗車人数で16%増加。 好評の定山溪ダム見学ツアーも4年ぶりに復活。
定山溪観光協会	(2)自然体験プログラムの 充実	② ガイド及びガイド事業者 の育成、技術向上支援	人材育成事業として「定山溪検定」の実施。定山溪 に従事するスタッフの学びの機会をつくる。	今年度は6月、12月に検定会を開催。これまで約 180人が受験。教材として動画を制作。
定山溪観光協会	(3)国立公園にふさわし い自然体験フィールドの 充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充 実	英語対応常勤スタッフ1名の配置を継続	英語対応常勤スタッフ1名の配置を継続
定山溪観光協会	(3)国立公園にふさわし い自然体験フィールドの 充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充 実	QRサインボードの設置場所選定および設置を継続。 既設のサインボードの維持。QRコードから見られる 図鑑機能の充実を図る。	今年度は4か所にQRコードを設置。図鑑機能も山 野草50種に増加。
定山溪観光協会	(4)サステイナブル・ ツーリズムの実現	② 持続的な利用のための ルールの策定と普及	豊平川をはじめ国立公園利用者への利用マナーの啓 発	空知総合振興局と川岸利用者への呼びかけの内容等 について調整中。許可が下りしだい呼びかけ看板を 設置予定。

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
定山溪観光協会	(4)サステイナブル・ ツーリズムの実現	① 二次・三次交通の充実	・新千歳空港シャトルバスの再開に向けて働きかけ ・定山溪温泉からの国際スキー場へのバス運行のはたらきかけ	国際スキー場へのシャトルバスは札幌市補助金「付加価値の高い観光コンテンツ事業」を利用した「定山溪スキーライナー」を2往復有料で運行。
定山溪観光協会	(4)サステイナブル・ ツーリズムの実現	③ CO2排出削減	自転車利用の便宜を図るため、利用状況を見ながらサイクルラックの設置個所の選定を継続	自転車利用の便宜を図るため、利用状況を見ながらサイクルラックの設置個所の選定を継続
定山溪観光協会	(6)周辺地域との連携、他 の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	ゴンドラライナー号(紅葉時の札幌国際スキー場と定山溪温泉間のシャトルバス)の運行を継続実施	紅葉の時期が遅れたため、乗車率は下がったものの、インバウンド乗車率 6%→43%と大きく回復。知名度も上がってきている。
定山溪観光協会	(6)周辺地域との連携、他 の国立公園との連携	② 支笏湖地区と定山溪地区 との連携	ツアー連携について引き続き検討を継続	ツアー連携について引き続き検討を継続
苫小牧観光協会	(1)支笏湖・定山溪地区 の魅力を国内外へ周知	① 観光案内所、WEBサイト 等における情報発信	苫小牧駅前観光案内所でのパンフレット設置、電話や対面による情報提供(継続実施)	・駅前観光案内所や電話での対応で樽前山7合目までの経路、道路の開通関係など案内している。
苫小牧観光協会	(3)国立公園にふさわしい 自然体験フィールドの 充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充 実	・道々141号線(樽前錦岡線)の冬季通行止めや倒木等による通行止めの情報等をHPで提供(継続実施)	・道々141号線(樽前錦岡線)の冬季通行止めや倒木等による通行止めの情報等をHPで提供

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
千歳観光連盟	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	①観光案内所、WEBサイト等における情報発信	・千歳駅で観光案内を行い、周辺情報の提供を実施。新たに美笛キャンプ場を支笏湖での拠点として観光案内も含めスタッフによる観光案内の実施の継続。	・千歳駅で観光案内を行い、周辺情報の提供を実施していたが、1月末を以て一時閉鎖。場所移転を目標に模索中。 ・新たに美笛キャンプ場を支笏湖での拠点として観光案内も含めスタッフによる観光案内の実施の継続。また、12月には支笏湖温泉街に支笏湖支所を新規設置し、支笏湖での拠点としての役割を強化。
千歳観光連盟	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	①観光案内所、WEBサイト等における情報発信	・SNSに関してもfacebook、インスタグラムを活用した情報発信を行うなど、美笛キャンプ場としてのインスタグラムやHPのリニューアル、予約制を実施予定。	・SNSに関してもfacebook、インスタグラムを活用した情報発信を行うなど、美笛キャンプ場としてのインスタグラムやHPのリニューアル、予約制を実施。その他、観光連盟のホームページを全面リニューアルを実施中。年度内での公開を目指している。
千歳観光連盟	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	・台湾市場に向け、国立公園の自然環境を活かした自然保護やSDGsをテーマとした教育旅行素材のPRを実施予定。	・台湾市場に向け、11月に北海道訪日教育旅行促進協議会とともに国立公園の自然環境を活かした自然保護やSDGsをテーマとした教育旅行素材のPRを実施した他、台湾ITFへもプロモーション実施。
千歳観光連盟	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	・台湾、シンガポールなどの東南アジア東アジアでのプロモーションを予定。	・タイ・シンガポールで冬季間プログラムのプロモーションやマラソン（千歳国際JALマラソンや北海道森林スポーツフェスタIN支笏湖）をフックにしたプロモーションを実施。
千歳観光連盟	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	2022年実施・検証結果を踏まえ、プログラム商品の実販売を検討	・アメリカ・カナダのAT旅行会社4社を独自に招請し、視察を実施 ・ATWS2023においてDOA2コースを催行
千歳観光連盟	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	台湾市場に向け、国立公園の自然環境を活かした自然保護やSDGsをテーマとした教育旅行素材のオンライン説明会などを予定。	・11月に北海道訪日教育旅行促進協議会とともに国立公園の自然環境を活かした自然保護やSDGsをテーマとした教育旅行素材のPRを実施した。
千歳観光連盟	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施		・タイ・シンガポールでマラソン（千歳国際JALマラソンや北海道森林スポーツフェスタIN支笏湖）をフックにした新たなプロモーションを実施
千歳観光連盟	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	支笏湖ルールの適正利用の推進を継続する他、支笏湖温泉第5駐車場の受益者負担の動向を見ながら連携する。	支笏湖ルールの適正利用の推進を継続する他、支笏湖温泉第5駐車場の受益者負担の動向を踏まえて連携していく。

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
千歳観光連盟	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	SNSに関してもfacebook、インスタグラムを活用した情報発信を行うなど、美笛キャンプ場としてのインスタグラムやHPのリニューアル、予約制を実施予定。	facebook、インスタグラムを活用した情報発信を行った他、美笛キャンプ場としてのインスタグラムやHPのリニューアル、予約制を実施。
千歳観光連盟	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	② 支笏湖地区と定山溪地区との連携	観光案内所にて支笏湖定山溪地区の情報共有を継続して実施	観光案内所にて支笏湖定山溪地区の情報共有を実施
恵庭観光協会	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	① 観光案内所、WEBサイト等における情報発信	<p>【観光案内所にて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恵庭溪谷から支笏湖・定山溪への周遊ドライブ案内 ・千歳市、千歳観光連盟、支笏湖ビジターセンター、支笏洞爺国立公園管理事務所、苫小牧観光協会からパンフレットやチラシ、ポスターなどの提供を受け配架・掲示など情報提供を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記取組予定の着実な実行 実例1) ボールパーク周遊観光のお客様が多客期で希望のホテル(温泉付き)が予約できず支笏湖温泉の施設をともに検索しながら紹介 実例2) 当市にあるマリオット宿泊インバウンド客から支笏湖への公共交通案内希望への対応 ・プロモーションや商談においてエリアPRの一環で支笏湖情報を紹介するようにしている ・10月13・14日に当協会設立60周年記念事業として恵庭溪谷紅葉バス運行を実施、89名の参加者に楽しんでいただき、周知宣伝面では本州にまで効果があった
国立公園支笏湖運営協議会	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	① 観光案内所、WEBサイト等における情報発信	2022年度に整備予定のWEBサイトの充実と運用	WEBサイトの充実と運用
国立公園支笏湖運営協議会	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	千歳観光連盟と連携しながら、継続して魅力資源の発掘、商品化を進める。	千歳観光連盟と連携しながら、継続して魅力資源の発掘、商品化を検討
国立公園支笏湖運営協議会	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	<ul style="list-style-type: none"> ・環境サステナビリティの実現を目指し、既存の支笏湖ダイビングに、湖底に蓄積するごみの清掃を行ないながら体験観光を行なうグリーンダイビングを造成展開していく。 ・また、支笏湖スタイルのキャンプ、カヌーやダイビングなどの体験観光に自然学習を組み込んだキャンプ商品として造成し、ゼロカーボンパークからの新たな発信を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支笏湖スタイルのキャンプ、カヌーやダイビングなどの体験観光の実施 ・ガイドの養成や事業者の連携の充実を検討
国立公園支笏湖運営協議会	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	支笏湖へ来訪された方々への現地案内、情報提供を充実させるため、関係機関との調整を図っていく。	支笏湖へ来訪された方々への現地案内、情報提供を充実させるため、関係機関との調整を図るHP問い合わせへの対応並びにメディア等の取材受け入れに対応

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
国立公園支笏湖運営協議会	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	支笏湖ビジターセンターにおける外国人対応のための英語対応職員配置への協力(支援)の継続	支笏湖ビジターセンターにおける外国人対応のための英語対応職員配置への協力(支援)の継続
国立公園支笏湖運営協議会	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	高速道路における「支笏湖」看板設置要請に関する検討を継続	高速道路における「支笏湖」看板設置要請に関する検討を継続
国立公園支笏湖運営協議会	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	ゼロカーボンパークとしての自然体験フィールドを発信するための推進体制の構築と発信拠点の整備を行う。	ゼロカーボンパークとしての自然体験フィールドを発信するための推進体制の構築と発信拠点の整備を検討。
国立公園支笏湖運営協議会	(4)サステナブル・ツーリズムの実現	① 二次・三次交通の充実	シーニックバイウェイ事業とともに自転車利用の推進を継続して進める。	シーニックバイウェイ事業とともに自転車利用の推進を継続して進める
国立公園支笏湖運営協議会	(4)サステナブル・ツーリズムの実現	② 持続的な利用のためのルールの策定と普及	支笏湖の適正利用を推進するため、利用ルールをアップデートし運用を進めていく。	支笏湖の適正利用を推進するため、支笏湖ルール(ローカルルール)パンフレットの発行、配布並びにアップデートを検討
国立公園支笏湖運営協議会	(4)サステナブル・ツーリズムの実現	① 二次・三次交通の充実	二次・三次交通の充実に資する周辺地域(ニセコ地区等)との連携強化	二次・三次交通の充実に資する周辺地域(ニセコ地区等)との連携強化の検討
国立公園支笏湖運営協議会	(5)多様な滞在スタイルの推進	① ワークेशन推進のための検討、調査	ワークेशन環境の整備状況並びに施設の取組状況を見ながら有効な商品開発に繋げ、ワークेशन推進を行う。	ワークेशन環境の整備状況並びに施設の取組状況を見ながら有効な商品開発に繋げ、ワークेशन推進の継続
国立公園支笏湖運営協議会	(5)多様な滞在スタイルの推進	① ワークेशन推進のための検討、調査	ワークेशन推進のためインフラ強化と発信の強化。	ワークेशन推進のためインフラ強化と発信の強化の検討
国立公園支笏湖運営協議会	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	千歳支笏湖のアイヌ文化とも結びつけてのウポイとの連携方策を検討している。(2022年度の取組を継続)	千歳支笏湖のアイヌ文化とも結びつけてのウポイとの連携方策を検討している。(2022年度の取組を継続)
国立公園支笏湖運営協議会	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	千歳市、苫小牧市等関係機関との情報共有により道道141号の冬季閉鎖解除要請について検討している。	千歳市、苫小牧市等関係機関との情報共有により道道141号の冬季閉鎖解除要請について検討
国立公園支笏湖運営協議会	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	② 支笏湖地区と定山渓地区との連携	枠組みが整った段階で支笏湖と定山渓、また恵庭溪谷等の周辺エリアと連携したプログラムの開発を検討していく。(2022年度の取組を継続)	枠組みが整った段階で支笏湖と定山渓、また恵庭溪谷等の周辺エリアと連携したプログラムの開発を検討していく。(2022年度の取組を継続)

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
国立公園支笏湖運営協議会	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	③ 他の国立公園との連携	北海道の国立公園の入り口に位置する支笏湖からの道内の国立公園等の自然フィールドの情報発信の充実。	北海道の国立公園の入り口に位置する支笏湖からの道内の国立公園等の自然フィールドの情報発信の充実の検討
国立公園支笏湖運営協議会	(7)自然体験活動の推進体制を強化	① DMO等への組織強化	組織強化のための取組を継続	組織強化のための取組を継続
国立公園支笏湖運営協議会	(7)自然体験活動の推進体制を強化	① DMO等への組織強化	ゼロカーボンパークとしての環境維持と自然体験活動の両立が可能な運営体制の構築と強化。	ゼロカーボンパークとしての環境維持と自然体験活動の両立が可能な運営体制の構築と強化を模索
自然公園財団支笏湖支部	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・道内の国立公園を紹介するパンフレットの備え付け ・各種案内表示やHP等の英語併記 ・JNTO認定カテゴリーⅡについては、スタッフ体制を勘案し検討 ・英語対応スタッフを配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省発行の道内の国立公園パンフレットを配架した。 ・英語併記については、その対応に努めた。 ・継続的な英語対応スタッフの確保を踏まえて検討していく必要がある。 ・英語対応スタッフの他、英語対応アルバイトを雇用した。
自然公園財団支笏湖支部	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	<p>現状の取組(以下)を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支笏湖園地の維持管理を継続実施 ・多目的室の貸し出しによる企画展を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の当初計画を確実に実施した。 ・年間を通じて多目的室の貸し出しを実施した。
自然公園財団支笏湖支部	(4)サステナブル・ツーリズムの実現	① 二次・三次交通の充実	<p>現状の取組(以下)を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電動アシスト自転車の貸し出し ・モデルコースのツアーの企画・実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・電動アシスト自転車 263台(昨年225台) /普通自転車 157台(昨年153台) ・電動アシスト自転車による「口無沼アドベンチャーライド」を実施した。また、ATWSでの貸し出しを実施した。
自然公園財団支笏湖支部	(5)多様な滞在スタイルの推進	② ナイトタイムの充実	夜のイベントの実施検討	<ul style="list-style-type: none"> ・真っ暗支笏湖「夜の園地で生き物さがし」を実施した。
北海道地方環境事務所	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	③国内外への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本の国立公園コンテンツ集」の情報追加、見直し ・支笏洞爺国立公園内での新たなモデルコースの検討、提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然体験コンテンツガイドライン」に基づくセルフチェックを各アクティビティ事業者に依頼 ・セルフチェック済のコンテンツを組み込んだ新たなモデルコースを支笏湖・定山溪地区に設定 ・上記コンテンツおよびモデルコースの、環境省「国立公園に、行ってみよう！」サイト掲載準備

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
北海道地方環境事務所	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	③国内外への情報発信	SNS (FacebookとInstagram) およびホームページを活用し、支笏洞爺国立公園の魅力を継続発信	・ SNS (FacebookとInstagram) およびホームページを活用し、支笏洞爺国立公園の魅力を発信 ・ アクティブレンジャー日記で支笏洞爺国立公園の魅力や取り組みを発信
北海道地方環境事務所	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	③国内外への情報発信	道内の担当職員間による意見交換などを通じ、道内6公園の連携を推進	・ 道内の担当職員間による意見交換などを通じ、連携方法について協議
北海道地方環境事務所	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	③国内外への情報発信	環境省オフィシャルパートナー企業と連携した支笏洞爺国立公園の認知向上、保全や適正利用に向けた情報発信	・ (一財) 休暇村協会と連携し、モラップキャンプ場の表示、HPの案内情報の多言語化を実施 ・ (株) モンベルと連携し、支笏湖畔における水辺利用の魅力とルールを発信
北海道地方環境事務所	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	関係機関と連携し、ATWSで得られた知見等を活用した受入体制整備の継続	・ 関係機関と連携し、ATWS2023、特にDOA (Day Of Adventure) 受け入れに向けた取組実施 ・ 支笏湖DOAに一部参加し、訪日外国人への聞き取りにより、ニーズや受入体制の課題などをリサーチ
北海道地方環境事務所	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	ATWSで得られたネットワーク等を活用し支笏洞爺国立公園でのATを全世界への発信を継続	・ ATWS2023の本会場や関連ツアーで支笏洞爺国立公園でのATについて魅力や情報を発信
北海道地方環境事務所	(1)支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	ツーリズムEXPO、VJTMなどで支笏洞爺国立公園の情報を継続発信	・ ツーリズムEXPO、VJTMなどで支笏洞爺を含む国立公園の情報を継続発信
北海道地方環境事務所	(2)自然体験プログラムの充実	①実態調査(基礎調査)	支笏湖・定山溪地区における外国人を含む利用状況調査を実施	・ 国立公園における外国人利用者の動向調査 (観光庁「訪日外国人消費動向調査」活用) 実施
北海道地方環境事務所	(2)自然体験プログラムの充実	② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援	エコツーリズムにかかる人材育成研修の講師派遣を必要に応じて実施	・ 宿泊事業者やガイド事業者の依頼に応じて、職員による国立公園 (自然公園法制度、国立公園事業、全国の動きなど) について説明
北海道地方環境事務所	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	縄文文化、アイヌ文化、火山と防災、産業遺産など、支笏洞爺国立公園内の教育資産を利用した旅行の提案を継続。支笏洞爺国立公園外の関連する教育資産との連携	・ 支笏湖畔山線鉄橋 (近代化産業遺産) や山線ミュージアム見学を組み込んだモデルコースを、新たに支笏湖・定山溪地区に設定

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
北海道地方環境事務所	(2)自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	観光庁との連携事業等により支笏湖のゼロカーボンパークや、定山溪の官民連携した取組みを継続推進	<ul style="list-style-type: none"> ・千歳市及び（一社）国立公園支笏湖運営協議会が実施するゼロカーボンパーク「支笏湖スタイル」の設定の取り組みに参加 ・定山溪地区での自然体験コンテンツの発掘。アクティビティを組み込んだモデルコース造成実施
北海道地方環境事務所	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	支笏湖ビジターセンターに設置したデジタルサイネージの活用継続	<ul style="list-style-type: none"> ・支笏湖ビジターセンターに設置したデジタルサイネージの活用継続 ・ヴァーチャルリアリティ（VR）映像機器の活用による疑似体験を提供
北海道地方環境事務所	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	支笏湖ビジターセンター内や園地内の多言語化を含むユニバーサルデザインへの対応、ウェブサイトの多言語化推進	<ul style="list-style-type: none"> ・支笏湖ビジターセンターでの多言語対応を継続 ・支笏湖園地(第5駐車場エリア)の再整備に伴い、4言語による山線鉄橋の歴史や水辺の生き物等の情報提供
北海道地方環境事務所	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	携帯電話のビックデータ、その他の調査に基づき、誘客やオーバーユース対策など、適正利用を推進	支笏湖園地（第5駐車場エリア）において、9月に協力金徴収の実証実験を行い、利用者アンケート調査を実施。オーバーユース対策や湖の適正利用のための制度導入を推進
北海道地方環境事務所	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	モラップ野営場の向上化に向け、民間売店の移転に伴う取付道路の整備や駐車場改修、テントサイト造成、電線地中化やWi-fi整備等を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・モラップ野営場の民間売店の移転を9月末までに完了 ・モラップ野営場の一部にWi-Fi機能を整備 ・取り付け道路の再整備による混雑緩和、駐車場改修、ユニバーサルサイト造成、電線地中化を実施
北海道地方環境事務所	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	「支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進協議会」において、登山道に関する意見交換会を開催し、管理体制などについて現況把握や情報共有	個別課題に関する意見交換会を開催し、アドベンチャートラベル（AT）、登山道や水辺の管理について、情報や課題を共有
北海道地方環境事務所	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	③ 魅力的な景観の保全、景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・第5駐車場（広場）およびモラップ野営場の再整備事業の完了 ・官民連携による施設管理と受益者（湖面利用者）負担による湖面適正利用の取組みの実証試験を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・第5駐車場（広場）の再整備は11月末に完了。モラップ野営場の再整備事業も年度内に完了見込み。 ・9月に受益者負担による水辺の管理について、実証試験を実施し、次年度からの本格運用に向けて体制を構築。
北海道地方環境事務所	(3)国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	③ 魅力的な景観の保全、景観形成	必要に応じて樹木の定期点検、景観支障木の伐採を実施	支笏湖集団施設地区において、景観支障木や危険木の伐採を実施

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2023年度の取組状況、実施状況、進捗
北海道地方環境事務所	(4)サステイナブル・ツーリズムの実現	③ CO2排出削減	ゼロカーボンパークの拡充や取組推進に向け、エネルギー特別会計を活用した補助事業や交付金に関する情報を提供	エネルギー特別会計を活用した補助事業や交付金に関する情報を提供
北海道地方環境事務所	(4)サステイナブル・ツーリズムの実現	① 二次・三次交通の充実	モラップ野営場および支笏湖公共駐車場におけるEV充電スタンドの運用継続、各拠点におけるレンタル電動自転車導入による連携の検討	・モラップ野営場および支笏湖公共駐車場におけるEV充電スタンドの運用継続 ・各拠点におけるレンタル電動自転車導入による連携の検討継続
北海道地方環境事務所	(4)サステイナブル・ツーリズムの実現	② 持続的な利用のためのルールの策定と普及	・「支笏湖ルール」の普及と、官民連携による受益者（湖面利用者）負担の検討継続 ・支笏湖ゼロカーボンパークにおける地域主体の「支笏湖スタイル」の取組への後方支援	・パンフレットなどによる「支笏湖ルール」の普及 ・官民連携による受益者（水辺利用者）負担制度導入に向けた実証実験実施
北海道地方環境事務所	(4)サステイナブル・ツーリズムの実現	③ CO2排出削減	支笏湖ビジターセンター等の直轄施設のRE100（Renewable Energy 100%）達成の維持継続と、各施設の更なる省エネ化の検討	支笏湖温泉地区、モラップ地区の直轄施設はRE100を達成。施設の断熱改修や運用面での更なる省エネ化の取り組みを継続
北海道地方環境事務所	(5)多様な滞在スタイルの推進	① ワークेशन推進のための検討、調査	モラップ野営場におけるワークションスペースの運用開始、フリーWi-Fiの提供	モラップ野営場におけるワークションスペースの運用開始、管理者によるフリーWi-Fiの提供
北海道地方環境事務所	(5)多様な滞在スタイルの推進	② ナイトタイムの充実	新たな夜間ツアーの実施について検討	事業者へのヒアリングにより、実施状況を把握
北海道地方環境事務所	(6)周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	・民族共生象徴空間ウポポイ、洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク、世界遺産（縄文遺跡群）などとの協力体制構築 ・北海道登別洞爺広域観光圏協議会や、ウェルカム北海道エリア・行政連絡担当者合同会議などへの参加を通じ、連携を推進	・民族共生象徴空間ウポポイとの連携協力により、環境省「国立公園に行ってみよう」サイトにウポポイの体験コンテンツを掲載 ・北海道登別洞爺広域観光圏協議会、シーニックバイウェイウェルカム北海道エリア合同会議などへの参加を通じ、連携を推進

(2)2023 年度（令和 5 年度）の取組について

① 2023(令和 5)年度の取組にみられる特徴

1) アドベンチャートラベル（A T）の推進に向けた取組

自然、アクティビティ、異文化体験を旅するアドベンチャートラベル(A T)の世界イベント（アドベンチャートラベルワールドサミット：ATWS）が 2023(令和 5)年 9 月に、北海道でリアル開催され、これにともない、A Tに関する取組も実施された。

アドベンチャートラベル(A T)に関する取組

ATWS2023 開催	<ul style="list-style-type: none"> ・2023 年 9 月 11～14 日札幌で開催された(複数の構成員機関が実行委員会に参画) 参加者数:64 国・地域から合計 773 名(主催団体 ATTA 発表) 会期初日の体験ツアー(Day of Adventure:DOA) 道内 31 コース、参加者 547 名 支笏湖・定山溪地区に関するコース: 「ゼロカーボンパーク支笏湖苔の回廊ハイキングとクリアカヤック」 「「鮭」の目線で札幌・豊平川沿いをサイクリングし、上流の定山溪でカヌー！」 主催団体の ATTA と北海道実行委員会では引き続き、北海道、日本のATを推進することを共同ステートメントで発表した
AT旅行会社の招請等	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ・カナダのAT旅行会社 4 社を独自に招請、視察を実施
ATガイド等の人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・安全確保を含めた要求レベルの高い海外顧客に対応できる人材を育成するため、ガイド人材の能力向上研修の実施
ATガイド認証制度等	<ul style="list-style-type: none"> ・2023 年 7 月から「北海道アドベンチャートラベルガイド認定等制度」試行 (2023 年 12 月時点で認定数 16 名)

2) 自然体験活動の受入環境(ハード・ソフト)の整備の進展

一部閉鎖している定山溪地区の遊歩道における落石への安全対策工事や、樽前山の登山道におけるロープ柵の設置及び改修工事に向けた測量設計が実施された。また、モラップキャンプ場や支笏湖温泉第 5 駐車場(水辺利用の入り口)の再整備等、自然体験活動のための施設(ハード面)での整備が進められた。また、定山溪温泉街との一体的な整備を進めるため、豊平川の「かわまちづくり」計画が検討されている。

一方、ソフト面では新たな取組として、温泉街の全従業員にコンシェルジュの役割を担ってもらおうとともに地域に愛着をもってもらうことを目的として始まった定山溪検定、また、水辺利用者から協力金を徴収し、その資金によって支笏湖の環境保全や施設管理を行う実証実験などが行われた。

施設整備(ハード)	体制・仕組みの整備(ソフト)
<ul style="list-style-type: none"> ・二見定山遊歩道(落石対策の実施) ・定山溪温泉街 足湯施設施工予定 ・樽前山登山道ロープ柵設置、改修の測量設計 ・モラップキャンプ場、支笏湖温泉第 5 駐車場再整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・定山溪検定(人材育成、愛着醸成)の実施 ・水辺利用の協力金(受益者負担制度)実証実験

3) インバウンドへの情報発信、プロモーション

コロナ禍後におけるインバウンドへの情報発信が行われており、台湾への教育旅行、タイやシンガポールを含む東アジア・東南アジアへのプロモーションが進められた。

4) サステナブルツーリズム(持続的な観光)のための取組

札幌市では、持続可能な観光推進のため、国際基準に準拠した指標(日本版持続可能な観光ガイドライン)に照らした取組状況の把握を実施した。定山溪地区の豊平川では、適正利用を推進するため、アクティビティ等の川辺利用者への注意喚起の看板設置が進められている。

支笏湖地区は、全国6番目のゼロカーボンパークに登録され、地域の住民・事業者、環境省、千歳市により、国立公園における脱炭素の取組が進められている。ビジターセンターの100%再生可能エネルギー化やEVスタンドの設置、間伐材利用等による環境に配慮したイベント開催、二次交通となる電動自転車等の貸出などが行われている。

② 次年度以降の課題

【A Tの推進とサステナブルツーリズム(持続的な観光)の推進】

今年度開催されたATWS2023について、「日本、北海道はA Tの目的地である、と多くの方々に認識され、参加者へのアンケート結果では、A Tで日本に期待するものとして「日本特有の文化」「すばらしい景観」に続いて3番目に「国立公園」があげられていた」、との報告が部会で共有された。ATWS2023で催行されたツアーに対するアンケートにおいて、「サステナビリティ、環境への配慮について表現されていたか」の評価は高くはないとの報告もあり、環境に配慮した施設やサービス等をどのように伝えていくかが課題として明らかになった。今後は、脱炭素、環境に配慮したプログラムやサービスの提供、さらにはSDGsを意識した取組を進めるとともに、これらの取組が旅行の付加価値となりうることを認識し、A TにおけるPR要素として発信していくことも検討する必要がある。

利用マナーやルール の啓発、環境保全や施設管理のための協力金導入等、適正利用への対応についても積極的に情報発信を行い、これらの地域的な広がりがひとつの「旅行スタイル」「旅行文化」として定着していくことが望ましいと考えられる。

【推進プログラム改定に向けた新たな目標や指標の検討】

2023年(令和5年)5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に指定変更され、旅行動向についてはコロナ禍後の段階に移行しつつある。2019(令和元)年回復目標への達成も近いと見込まれるが、ウクライナ戦争等の国際情勢や円安継続等の社会経済情勢がコロナ禍前とは変化してきている。国内旅行需要や訪日外国人旅行者の動向、また構成員機関における取組や実施体制等をふまえた上で、2025(令和7)年度をめどとして、新たな目標を設定し、自然体験活動の質的量的な受け入れ環境を整えていくことが求められる。

3. 自然体験活動推進プログラムの今後の取組について

構成員の取組の2024(令和6)年度の予定、及び2025(令和7)年度に向けた計画、展望等について次ページ以降に示した。また、2024年度以降に予定されている取組のうち、新たな動き等が想定されるものを以下に示した。

【支笏湖地区】

- 支笏湖園地(第5駐車場エリア)における、協力金等受益者負担による官民連携の管理運営を開始予定。
- 樽前山登山道の改修工事予定。

【定山溪地区】

- 空沼岳と札幌岳の縦走路の整備に向けた動き。
- 二見定山の湯歩道の安全対策工事の完了による全面開通の予定。
- 足湯施設新築事業の工事、供用開始の予定。
- かわまちづくり(豊平川)計画申請、定山溪観光魅力アップ構想の策定の予定。

【全般】

- ATWS2023を契機としたAT受入環境整備やATメニュー開発等。
- ATガイド認定制度に向けた人材育成事業等。

支笏湖地区では、2024年度以降に協力金等受益者負担による事業が開始予定となっている。定山溪地区では、登山道や遊歩道、足湯施設等の整備の動きがみられるとともに、定山溪地区のまちづくりに関する二つの重要な計画策定が予定されている。

ATWS2023を契機としたAT受入環境整備や、今年度新設されたATガイド認定等制度の資格取得をめざした人材育成の取組も想定される。

各機関の取組

共通地区	支笏湖地区	定山溪地区
------	-------	-------

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2025年度までの展望、 取組予定
北海道森林管理局 計画保全部			引き続き、各機関の取組において国有林野のフィールド利用の要望等があれば、できる限り協力する。
北海道森林管理局 石狩森林管理署			空沼岳と札幌岳の登山道（縦走路）を整備したいとの要請が提出されたので、2024年度から整備できるように準備を進める。
北海道経済産業局	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	2025年の大阪・関西万博開催と連動したA TのPR支援等、A Tの普及啓発を継続する。
	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	引き続き、中小企業施策を活用し、事業者等が行う新たな滞在メニューやプログラムの開発等を支援する。
北海道運輸局	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	ATWS等ATTAが主催するイベントの機会も活用し、世界のA T関係者に向けて支笏湖・定山溪地区を含む北海道の魅力を発信（予定）
	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	ガイド事業者の育成に向けた研修会の実施、他省庁とも連携したガイドが活用できる支援策の案内、コンテンツ造成・磨き上げに活用できる観光庁事業の紹介・伴走（予定）
	(4) サスティナブル・ツーリズムの実現		2024年度の取組(予定計画) 自然資源活用に関する地域ルール策定等持続可能な観光地域づくりに活用できる観光庁事業の紹介・伴走（予定） 2025年度に向けた目標、展望 道内における持続可能な観光地域づくりの取り組みを進める。
	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	③ 他の国立公園との連携	観光庁事業の活用、JNTO他関連機関との連携などを通じて継続して取り組む。
北海道開発局札幌 開発建設部	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	秀逸な道区間で地域と道路管理者が一体で清掃活動を行うなど秀逸な道の磨き上げを継続
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	国道230号における道路利用者への安全安心利用の普及啓発のため、マップを道の駅や各観光施設への配布を継続

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2025年度までの展望、 取組予定
北海道開発局札幌 開発建設部	(3) 国立公園にふさわ しい自然体験フィ ールドの充実とそ の管理	① 情報提供・ 案内機能の充 実	国道における高速道路のナンバリング標識整備、道路 案内標識、交差点名標識の地名表示、道路情報板の英 語表記の適正化（継続実施）
	(3) 国立公園にふさわ しい自然体験フィ ールドの充実とそ の管理	① 情報提供・ 案内機能の充 実	サイクルツーリズムを推進するためのマップの更新、 配布を継続
	(3) 国立公園にふさわ しい自然体験フィ ールドの充実とそ の管理	③ 魅力的な景 観の保全、景 観形成	視点場の整備として、地域で検討し決定したパーキン グ名称の標識を設置予定
北海道経済部観光 局	(1) 支笏湖・定山溪地 区の魅力を国内外 へ周知	④ 海外に向け たPR	・北海道におけるATを推進するための各種PR等を実 施
	(2) 自然体験プログラ ムの充実	② ガイド及び ガイド事業者 の育成、技術向 上支援	・北海道におけるAT推進のため必要な人材育成の取 組を検討 ・2023年7月から試行した「アドベンチャートラベル ガイド認定等制度」の認定ガイド数の増を目指す。 ・北海道アウトドアガイド有資格者、北海道アドベン チャートラベルガイド有資格者の認定ガイド数の増を 目指す。
北海道胆振総合振 興局	(3) 国立公園にふさわ しい自然体験フィ ールドの充実とそ の管理	② 利用施設の 整備、改善、 維持管理の充 実	2024年度取組(予定計画) 支笏洞爺国立公園樽前山線道路(歩道)改修工事を実 施し、老朽化した施設の整備を行う。 2025年度に向けた目標、展望 改修した施設の管理を関係機関等と連携して行い、 施設の長寿命化と景観の保全を図る。 適切な施設点検及び維持管理の実施
北海道石狩振興局	(3) 国立公園にふさわ しい自然体験フィ ールドの充実とそ の管理	② 利用施設の 整備、改善、 維持管理の充 実	関係機関との協議内容を踏まえ、モラップ線歩道のあ り方について方向性を決定し、その内容に基づいて対 応を行う。
	(3) 国立公園にふさわ しい自然体験フィ ールドの充実とそ の管理	② 利用施設の 整備、改善、 維持管理の充 実	二見定山の遊歩道の安全対策工事を完了させ、全面開 通する。
	(1) 支笏湖・定山溪地 区の魅力を国内外 へ周知	① 観光案内 所、WEBサイ ト等における 情報発信	振興局が実施する観光プロモーションにおいて、パン フレット、HP、SNSや動画等を活用しながら、管内の 観光スポットを多言語で紹介し、国内外からの誘客促 進を図る。

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2025年度までの展望、 取組予定
札幌市	(1) 支笏湖・定山渓地区の魅力を国内外へ周知	① 観光案内所、WEBサイト等における情報発信	各案内所にて、定山渓の多言語パンフレットの配布やイベント情報の発信を継続する。
		④ 海外に向けたPR	・引き続き、インバウンドの早期回復に向けた各種プロモーションを行うとともに、中長期的な視点では、観光消費額や滞在日数の増加を目指し、都市型スノーリゾートのブランド化、欧米豪等の新たな市場での認知拡大を図っていく。
	(2) 自然体験プログラムの充実	② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援 ③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	・ガイドの育成等を目的とした「定山渓検定」の実施、集客イベント、アクティビティコンテンツの推進事業等に対して、補助を実施
		(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実
	③ 魅力的な景観の保全、景観形成		・老朽化した施設の修繕や、緑が少なく寂しい印象になっていた場所の緑化等、魅力的な景観形成を行う民間事業者に対して、補助を継続する。さらに魅力的な景観形成に寄与する観光スポットの新設を進める。
	(4) サスティナブル・ツーリズムの実現		・持続可能な観光推進のため、札幌市の取組状況の把握を行い、効果的な取組を行うため2023年度に策定した方針に基づき、持続可能な観光の実現に向けて具体的な取組を実施予定
	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	定山渓観光協会HPやパンフレットの更新、SNSを利用した情報発信等、定山渓観光協会が行う事業に対して、補助を継続実施
都市型スノーリゾートとしての世界的ブランド確立に向けた、冬季観光コンテンツ造成に対する補助、市内スキー場の魅力アップや市内スキー場等が連携した事業への支援を実施予定			
(7) 自然体験活動の推進体制を強化	① DMO等への組織強化	札幌版DMOの概要・方向性(案)に基づきDMOの設立、概要・方向性、組成方法等を決定予定	
苫小牧市	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	④ 安全、安心な環境づくり	ホームページによるマナー・注意事項、樽前山7合目までの道路整備等の周知、登山者数のカウント、観光施設に英語表記パンフレットの配布、外国人登山者への施設利用に関する多言語表記案内

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2025年度までの展望、 取組予定
千歳市	(1) 支笏湖・定山渓地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	・千歳空港に直行便の就航がある東アジア・東南アジア諸国をターゲットに、旅行博への出展プロモーションや現地セールスを実施し、インバウンドの誘客を図る。
	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	支笏湖ビジターセンターの実施する自然体験学習プログラムへの補助金交付による支援継続
千歳市	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	ATWSで得られた知見を活かし、AT層の受入環境の整備・充実や観光事業者の支援に取り組む。
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	支笏湖ビジターセンターの案内機能強化のため、運営機関への支援を継続する。
	(5) 多様な滞在スタイルの推進	① ワークেশョン推進のための検討、調査	研修型・地域貢献型ワークেশョンプログラムの宣伝を行うなど、誘致活動を実施する。
	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	シーニックバイウェイへの参画など支笏湖と定山渓、また恵庭溪谷等の周辺エリアと連携したプログラムについて、関係各機関との情報共有のなかで検討
			世界文化遺産に登録されたキウス周堤墓群について、2026年度供用開始予定のガイダンス施設の整備状況を勘案しながら、周辺地域と連携したツアー商品等の開発、造成を実施
恵庭市	(2) 自然体験プログラムの充実	② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援	盤尻地区における自然体験、歴史教育体験プログラムの開発及びガイド育成に向けた調整・実施
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	盤尻地区における広報拠点施設の設置に向けた調整・着手
	(4) サステイナブル・ツーリズムの実現	① 二次・三次交通の充実	盤尻地区におけるレンタカー、タクシー、バス会社等と連携した2次交通の確保に向けた調整・実施
	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	周遊策について協議し、周辺地域との連携強化。
			恵庭溪谷の更なる利用拡大のため、駐車場の拡大や四季に応じたツアーの実施等について要望・調整
より一層の公園の魅力向上を目指すため、ホーストレッキングなどの集客コンテンツの実施や公園内林道の整備、維持を検討			
花の拠点（はなふる）が花のまち恵庭及び北海道の花と緑の文化を体感できる観光交流拠点となるよう、近隣の花と緑の観光資源との連携強化			

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2025年度までの展望、 取組予定	
北海道観光振興機構	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	「HOKKAIDO LOVE!」の外国語サイト運営に多言語CMSを導入する。そのことにより掲載情報の更新負担を下げ、更新頻度を上げる。 注目され得る観光情報の発信により、支笏湖・定山溪エリアへの観光客増加を図る。	
		③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	人材育成やAT商品造成を始めとする受け入れ態勢の整備、国内外におけるプロモーション、当機構サイト内のATページによる情報発信などを通じ、ATの推進を継続して行う。 「地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業」においての滞在メニューやプログラム・コンテンツの造成・販売を支援することで、地域が補助金に頼らなくても自立できる観光地になることを目指す。	
	(5) 多様な滞在スタイルの推進	① ワークেশョン推進のための検討、調査 ② ナイトタイムの充実	ATWSが契機となり、ATの存在感が増している。今後はATを軸としたコンテンツが多く開発されてゆくと想定される。	
	北海道アドベンチャータラベル協議会(HATA)	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	ATWS参加などを通じて、国立公園の魅力を伝える取組を行う予定。
			(2) 自然体験プログラムの充実	② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援
(4)サスティナブル・ツーリズムの実現			2024年度取組(予定計画) 各種講演・セミナー等において講師を派遣するなど、各機関の取組に協力する。 2025年度に向けた目標、展望 公園地域内の自治体、公園地域内で事業を行う事業者のサスティナブルな取組の増加を後押しする。	
(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携		③ 他の国立公園との連携	外国人向けHATAホームページを改修し、国立公園のリンクを貼り、情報発信する予定。	
(7)自然体験活動の推進体制を強化		2024年度取組(予定計画) 研修等を通じてDMCのATに関する理解増進を図り、スルーガイド、アクティビティガイド、地域のステークホルダーの連携を強化する。 2025年度に向けた目標、展望 関係者の連携を強化することでATや自然体験活動の推進体制を強化する。		
定山溪観光協会	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	①観光案内所、WEBサイト等における情報発信	パンフレットは秋を目処に改訂予定	

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2025年度までの展望、 取組予定
定山溪観光協会	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	紅葉時期の紅葉かっぱバス(ガイド付き観光バス)の運行を継続的に実施
		② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援	人材育成事業「定山溪検定」のテキストの改訂。より専門的な分野(自然ガイド・登山ガイド)への、学びの機会をつくる。
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	英語対応常勤スタッフ1名の配置を継続
			・QRサインボードの設置場所選定および設置を継続し、既設のサインボードの維持。図鑑機能の充実
	(4) サスティナブル・ツーリズムの実現	② 持続的な利用のためのルールの策定と普及	豊平川をはじめ国立公園利用者への利用マナーの啓発のため、サインの効果を見て、内容の再検討など
		① 二次・三次交通の充実	「定山溪スキーライナー」2往復有料運行の利用状況を見て、更なる増便の働きかけ
		③ CO2排出削減	自転車利用の便宜を図るため、利用状況を見ながらサイクルラックの設置個所の選定を継続
	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	ゴンドラライナー号(紅葉時の札幌国際スキー場と定山溪温泉間のシャトルバス)の運行を継続実施
		② 支笏湖地区と定山溪地区との連携	ツアー連携について引き続き検討を継続
	苫小牧観光協会	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	① 観光案内所、WEBサイト等における情報発信
(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理		① 情報提供・案内機能の充実	・道々141号線(樽前錦岡線)の冬季通行止めや倒木等による通行止めの情報等をHPで提供(継続実施)
千歳観光連盟	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	① 観光案内所、WEBサイト等における情報発信	・千歳駅観光案内所の移転場所選定を実施予定 ・美笛キャンプ場は予約制導入結果を踏まえブラッシュアップを実施
			・SNSの関係はfacebook、インスタグラムを活用した情報発信を行う今以上に発信予定。ホームページは更新作業を継続実施。
	(2) 自然体験プログラムの充実	④ 海外に向けたPR	・新千歳空港に直行便の就航がある東アジア・東南アジア諸国をターゲットに、現地セールスを実施し、インバウンドの誘客を図る。
		③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	・ATWSで得られた知見を活かし、事業者と連携し、ATメニューのレベル(難易度)やシーズンの多様化に向けたプログラム開発、またAT層の受入環境の整備・充実に取り組む

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2025年度までの展望、 取組予定
千歳観光連盟	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	国立公園の自然環境を活かした自然保護やSDGsをテーマとした教育旅行素材のPRを新千歳空港に直行便の就航がある東アジア・東南アジア諸国をターゲットに継続実施
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	支笏湖ルールの適正利用の推進を継続する他、支笏湖温泉第5駐車場の受益者負担の動向を見ながら連携を継続実施 美笛キャンプ場は予約制導入結果を踏まえブラッシュアップを実施。 SNSに関係はfacebook、Instagramを活用した情報発信を行う今以上に発信予定。
	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	② 支笏湖地区と定山溪地区との連携	観光案内所にて支笏湖定山溪地区の情報共有を継続実施
恵庭観光協会	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	① 観光案内所、WEBサイト等における情報発信	【観光案内所にて】 ・恵庭深谷から支笏湖・定山溪への周遊ドライブ案内 ・千歳市、千歳観光連盟、支笏湖ビジターセンター、支笏洞爺国立公園管理事務所、苫小牧観光協会からパンフレットやチラシ、ポスターなどの提供を受け配架・掲示など情報提供を継続実施 及び観光博イベント・商談等でのエリア観光を意識したPR
国立公園支笏湖運営協議会	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知		WEBサイトの充実と運用
	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	千歳観光連盟と連携しながら、継続して魅力資源の発掘、商品化を検討 支笏湖スタイルのキャンプ、カヌーやダイビングなどの体験観光の充実を図る為、ガイドの養成や事業者の連携の充実を図る。
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	支笏湖へ来訪された方々への現地案内、情報提供を充実させるため、関係機関との調整を図る HP問い合わせへの対応並びにメディア等の取材受け入れに対応 支笏湖ビジターセンターにおける外国人対応のための英語対応職員配置への協力(支援)の継続 高速道路における「支笏湖」看板設置要請に関する検討を継続 ゼロカーボンパークとしての自然体験フィールドを発信するための推進体制の構築と発信拠点の強化と地域連携体制の強化を図る。
	(4) サステイナブル・ツーリズムの実現	① 二次・三次交通の充実 ② 持続的な利用のためのルールの策定と普及	シーニックバイウェイ事業とともに自転車利用の推進を継続して進める 支笏湖周辺すべての地区の利用ルールを策定し適正利用を推進する。引き続き利用ルールをアップデートし運用を進めていく

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2025年度までの展望、 取組予定
国立公園支笏湖運営協議会	(4) サスティナブル・ ツーリズムの実現	① 二次・三次 交通の充実	二次・三次交通の充実に資する周辺地域（ニセコ地区等）との連携強化の検討
	(5) 多様な滞在スタイルの推進	① ワークেশ ン推進のため の検討、調査	ワークेशन環境の整備状況並びに施設の取組状況を見ながら有効な商品開発に繋げ、ワークेशन推進の継続
			ワークेशन推進のためインフラ強化と発信の強化の検討
	(6) 周辺地域との連携、 他の国立公園との 連携	① 周辺地域と の連携	千歳支笏湖のアイヌ文化とも結びつけてのウポポイとの連携方策を検討している。(継続)
			千歳市、苫小牧市等関係機関との情報共有により道道141号の冬季閉鎖解除要請について検討
		② 支笏湖地区 と定山溪地区 との連携	枠組みが整った段階で支笏湖と定山溪、また恵庭溪谷等の周辺エリアと連携したプログラムの開発を検討していく。(継続)
	(7) 自然体験活動の推 進体制を強化	③ 他の国立公 園との連携	北海道の国立公園の入り口に位置する支笏湖からの道内の国立公園等の自然フィールドの情報発信の充実の検討
① DMO等へ の組織強化			組織強化のための取組を継続 ゼロカーボンパークとしての環境維持と自然体験活動の両立が可能な運営体制の安定した運営。
自然公園財団支笏湖支部	(3) 国立公園にふさわ しい自然体験フィ ールドの充実とそ の管理	① 情報提供・ 案内機能の充 実	・支笏湖周辺の自然情報・観光情報の収集及び提供 ・道内の国立公園を紹介するパンフレットの備え付け ・各種案内表示やHP等への英語表記 ・英語対応スタッフを配置
		② 利用施設の 整備、改善、 維持管理の充 実	現状の取り組み(以下)を継続実施 ・支笏湖園地の維持管理 ・多目的室の貸し出しによる企画展の開催
	(4) サスティナブル・ ツーリズムの実現	① 二次・三次 交通の充実	現状の取り組み(以下)を継続実施 ・普通自転車、電動アシスト自転車の貸し出し ・電動アシスト自転車を活用したイベントの企画・実施同左
			(5) 多様な滞在スタイルの推進
	北海道地方環境事務所	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	③国内外への 情報発信

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2025年度までの展望、 取組予定
北海道地方環境事務所	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	③国内外への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS (FacebookとInstagram) およびホームページを活用し、支笏洞爺国立公園の魅力を発信 ・ アクティブレンジャー日記で支笏洞爺国立公園の魅力や取り組みを発信
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 道内3公園の周年事業、および1公園の指定記念事業にあわせ、支笏洞爺国立公園ほかの情報発信を合同で検討
			<ul style="list-style-type: none"> ・ オフィシャルパートナーとの連携事業を継続 ・ 新規連携先、連携内容の検討
		④ 海外に向けたPR	<ul style="list-style-type: none"> ・ ATWS2023以降も関係機関と連携し、A T推進の取組継続
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域DMOなどと連携し、ツーリズムEXPO、VJTMなどでの情報発信継続
	(2) 自然体験プログラムの充実	①実態調査(基礎調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園における外国人利用者の動向調査(観光庁「訪日外国人消費動向調査」活用)実施
		② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコツーリズムにかかる人材育成研修の情報紹介や周知、必要に応じて講師派遣を実施
		③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園内の教育的資産を活用したツアーの造成検討 千歳市及び(一社)国立公園支笏湖運営協議会が実施するゼロカーボンパーク「支笏湖スタイル」の設定の取り組みに参加、継続 ・ 定山溪地区での自然体験コンテンツの発掘。アクティビティを組み込んだモデルコース造成の継続
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支笏湖ビジターセンターに設置したデジタルサイネージ、ヴァーチャルリアリティ(VR)映像機器のコンテンツ充実、利便性の向上
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 支笏湖ビジターセンターでの多言語対応を継続 ・ 支笏湖園地(第5駐車場エリア)の再整備に伴い、4言語による山線鉄橋の歴史や水辺の生き物等の情報提供
<ul style="list-style-type: none"> 支笏湖園地(第5駐車場エリア)において、9月に協力金徴収の実証実験に基づき、誘客やオーバーユース対策など、適正利用を推進 			
	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ モラップ野営場の管理団体と連携し、ワーケーション等の新規サービスを展開 	
	② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別課題に関する意見交換会を開催し、アドベンチャートラベル(AT)、登山道や水辺の管理について、情報や課題を共有の継続 	

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2025年度までの展望、 取組予定
北海道地方環境事務所	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	③ 魅力的な景観の保全、景観形成	<p>受益者負担による水辺の管理についての実証実験結果に基づく、官民連携の受益者負担による管理運営を開始</p> <p>・支笏湖集団施設地区において、景観支障木や危険木の伐採の継続</p>
	(4) サステイナブル・ツーリズムの実現	③ CO2排出削減	<p>・エネルギー特別会計を活用した補助事業や交付金に関する情報を提供</p>
	(4) サステイナブル・ツーリズムの実現	① 二次・三次交通の充実	<p>・モラップ野営場および支笏湖公共駐車場におけるEV充電スタンドの運用継続</p> <p>・各拠点におけるレンタル電動自転車導入による連携の検討継続</p>
		② 持続的な利用のためのルール策定と普及	<p>「支笏湖ルール」の普及</p> <p>・官民連携での受益者（湖面利用者）負担制度による管理運用</p> <p>・支笏湖ゼロカーボンパークにおける地域主体の「支笏湖スタイル」の取組への後方支援</p>
		③ CO2排出削減	<p>・支笏湖ビジターセンター等の直轄施設のRE100 (Renewable Energy 100%) 達成の維持継続と、各施設の更なる省エネ化の検討の継続</p>
	(5) 多様な滞在スタイルの推進	① ワークেশョン推進のための検討、調査	<p>・ワークেশョン推進に向けた補助事業や交付金に関する情報を提供</p>
		② ナイトタイムの充実	<p>・夜間のアクティビティについて検討</p>
	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	<p>・民族共生象徴空間ウポポイとの連携協力により、環境省「国立公園に行ってみよう」サイトにウポポイの体験コンテンツを掲載</p> <p>・北海道登別洞爺広域観光圏協議会、シーニックバイウェイウェルカム北海道エリア合同会議などへの参加を通じ、連携を推進</p>